



# Applications Manager

スタートアップガイド

2017年3月発行（第三版）

■ 著作権について本ガイドの著作権は、ゾーホージャパン株式会社が所有しています。

#### ■ 注意事項

このガイドの内容は、改良のため、予告なく変更することがあります。

ゾーホージャパン株式会社はこのガイドに関しての一切の責任を負いかねます。当社はこのガイドを使用することにより引き起こされた偶発的もしくは間接的な損害についても責任を負いかねます。

#### ■ 商標一覧

記載の会社名、ロゴ、製品名の固有名詞は各社の商号、商標または登録商標です。

なお、本ガイドでは、(R)、TM表記を省略しています。

## 目次

はじめに .....	1
1.1 スタートアップガイドについて .....	1
1.2 対象読者 .....	1
1.3 本ガイドの見方 .....	1
1.4 Applications Manager 製品使用上の注意点 .....	1

2	インストール .....	3
2.1	システム要件 .....	3
2.2	Professional 版のインストール (Windows の場合) .....	3
2.3	Professional 版のインストール (Linux の場合) .....	9
3	起動と停止 .....	13
3.1	起動 .....	13
3.2	停止 .....	13
3.3	APM プラグインの起動と停止 .....	14
3.4	バックアップとリストア .....	15
4	ライセンスの適用と確認 .....	16
4.1	ライセンスの登録 .....	16
4.2	ライセンス情報の確認 .....	16
5	各画面の説明 .....	17
5.1	ログイン画面 .....	17
5.2	[ホーム]メニュー .....	18
5.3	[監視]メニュー .....	18
5.4	[アラート]メニュー .....	18
5.5	[レポート]メニュー .....	19
5.6	[管理]メニュー .....	19
5.7	[APM インサイト]メニュー .....	20
5.8	[エンドユーザー監視]メニュー .....	20
5.9	各監視画面 .....	21
5.10	タブのカスタマイズ .....	21

5.11	[サポート]リンク .....	22
6	管理設定 .....	23
6.1	ディスカバリーとデータ収集 .....	23
6.2	アラート／アクション .....	23
6.3	製品設定 .....	24
6.4	ポータルとの連携 .....	24
6.5	レポート .....	24
6.6	ツール .....	25
7	監視の登録 .....	26
7.1	監視の登録 .....	26
7.2	認証の設定 .....	26
8	監視の設定 .....	29
8.1	エレメント監視 - Oracle 監視 .....	29
8.2	エレメント監視 - MS SQL (SQL Server) 監視 .....	31
8.3	エレメント監視 - Apache サーバー監視 .....	33
8.4	エレメント監視 - IIS 監視 .....	35
8.5	エレメント監視 - Tomcat サーバー監視 .....	36
8.6	Amazon Web Service (AWS) 監視 .....	38
8.7	データベースクエリ監視 .....	40
8.8	ファイル/ディレクトリ監視 .....	42
8.9	URL シーケンス監視 .....	44
8.10	エンドユーザ一体感監視 .....	46
8.11	リアルブラウザー監視 .....	48

8.12	APM インサイト監視 .....	51
8.13	ポーリング設定 .....	55
9	監視ビューの設定 .....	57
9.1	監視グループ .....	57
9.2	ダッシュボード .....	57
10	障害管理の設定 .....	59
10.1	メールサーバー設定 .....	59
10.2	アラート設定 .....	59
10.3	アクションの作成 .....	60
10.4	しきい値プロファイルの作成と関連づけ .....	61
10.5	異常値プロファイルの作成 .....	63
11	レポートの設定 .....	65
11.1	レポートの作成方法 .....	65
11.2	スケジュールレポート .....	66
12	その他 .....	67
12.1	ユーザー管理 - 新規作成 .....	68
12.2	ユーザー管理 - ドメイン .....	68
12.3	パーソナライズ化 .....	68
13	サポート関連 .....	69
13.1	年間保守サポートサービス .....	69
13.2	サポート情報ファイルの取得 .....	70
13.3	アップデートパック（サービスパック）の適用方法 .....	70



## はじめに

## 1.1 スタートアップガイドについて

本ガイドの特長は次のとおりです。

- Applications Manager のインストール方法や設定方法について説明しています。評価期間中や導入構築時、運用開始時に利用しやすい資料となっています。
- Applications Manager の「Professional Edition」に対応しています。

## 1.2 対象読者

本ガイドは、Applications Manager を導入するシステム管理者やシステムインテグレーターを対象としています。

## 1.3 本ガイドの見方

本ガイドでは文字の書体を以下のように使い分けています。

表 1 文字の書体について

字体または記号	説明	例
AaBbCc123	ファイル名、ディレクトリ名、画面上の出力を示します。	ManageEngine_Applications Manager.exe を実行してください。
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	# <b>su - password:</b>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	<i>AppManager_Home/bin</i>
『』	参照する章、節を示します。	『1 はじめに』を参照してください。
[ ]	ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	[ホーム]タブ画面

## 1.4 Applications Manager 製品使用上の注意点

## (1) 制限事項

管理者権限のアカウントで Applications Manager をインストール、起動してください。

Applications Manager インストールフォルダ以下のサブフォルダすべてに現アカウントに関する書き込み権限が必要です。

ウィルス対策ソフトで Applications Manager インストールフォルダをスキャン対象から外していただく必要がございます。（ウィルス対策ソフト例外設定）

監視対象登録後、IP アドレスの変更は推奨しておりません。

日本語（マルチバイト）の扱いについて

○ Applications Manager は、一部、日本語の入力に対応しておりません。

対応していない部分につきましては、半角英数字をご利用ください。

## (2) Applications Manager サーバー使用ポート

Applications Manager が使用するポートは以下の通りです。利用時にはポートが使用できる状態にしてください。

表 2 サーバー使用ポート

アプリケーション名	ポート番号	備考
PostgreSQL サーバー(データベース)	15432	-
Web サーバーポート	9090	インストール時に指定します。
Web サーバーポート (SSL)	8443	インストール時に指定します。
Web Container ポート	18009	-
Tomcat シャットダウンポート	18005	-
NMS BE Port	2000	-
SNMP	161	-
SNMP トランプ	1620	-
WMI	135 / 445	左記の他、動的に割り当てられる 1024 以上ポートも必要です。
Telnet	23	-
ssh	22	-

使用ポートの詳細は以下のソリューションナレッジをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications\\_Manager/?p=378](https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=378)

## 2 インストール

Applications Manager のパッケージには、Web サーバー、アプリケーションサーバー、データベースサーバーなど、起動に必要なものが全て含まれています。インストール作業は、Web サーバーやデータベースサーバーの専門知識を必要とせず、インストーラーにより全て自動でインストールします。

インストール後、Web ブラウザーで Applications Manager サーバーの URL (http://サーバー名:9090) に接続を行い、Applications Manager の Web クライアントを開きます。Web クライアントで Applications Manager の設定を行います。

### 2.1 システム要件

Applications Manager のシステム要件（最小構成）は次の表のとおりです。

表 3 システム要件

ハードウェア (最小構成)	CPU Pentium4 3.4 GHz メモリー 4 GB RAM ハードディスク 40 GB
オペレーティングシステム	Windows (7、8、Server 2008、Server 2008 R2、Server 2012、Server 2012 R2 ) Linux (Redhat 8.0 以上、Redhat Enterprise Linux 2.1 以上、Debian、Suse、Ubuntu、Mandriva、CentOS、Fedora Core )
ウェブブラウザー	Internet Explorer 11 Mozilla Firefox 2.0 以上 Google Chrome 4.0 以上

### 2.2 Professional 版のインストール (Windows の場合)

- (1) ManageEngine\_ApplicationsManager.exe を管理者権限で実行します。実行後、ウィザード形式によりインストールを行います。



図 1 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(2) [Next] (次へ) をクリックします。

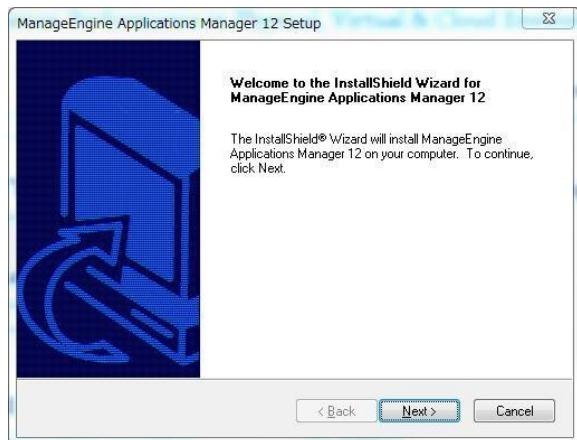


図 2 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(3) ライセンス条項に承諾後、[Yes] (はい) をクリックします。

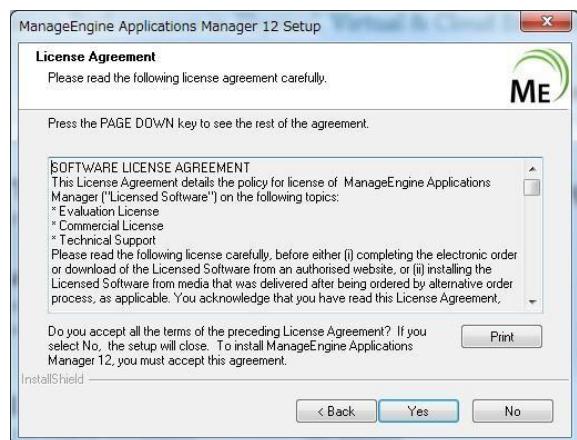


図 3 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(4) 言語として、「Japanese」(日本語) を選択し、[Next] (次へ) をクリックします。

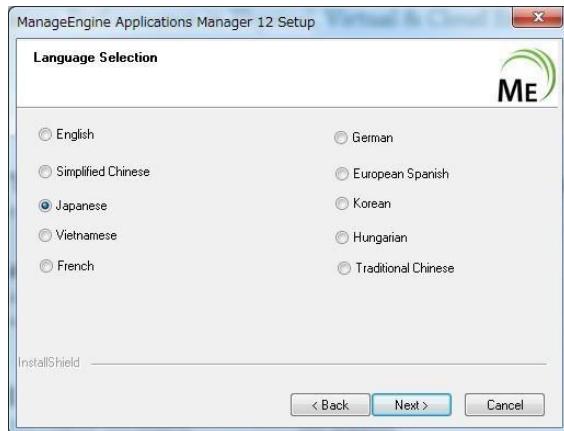


図 4 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(5) Edition として「Professional Edition」(評価版)を選択し、[Next] (次へ) をクリックします。30 日の評価期間中、無料技術サポートを提供しています。製品購入後、ライセンスキー適用により、正式版へ移行できます。「Free Edition」(無料版)では日本語でのサポートを提供していません。

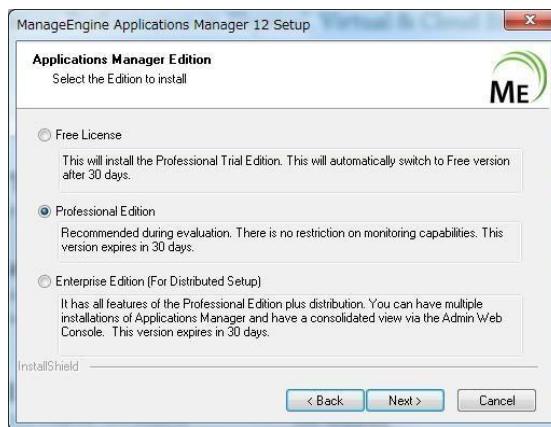


図 5 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(6) インストールディレクトリを選択し、[Next] (次へ) をクリックします。デフォルトでは、C:\Program Files\ManageEngine\AppManager12 です。以降、本ガイドでは、インストールしたディレクトリを [APM\_HOME] として説明を行います。

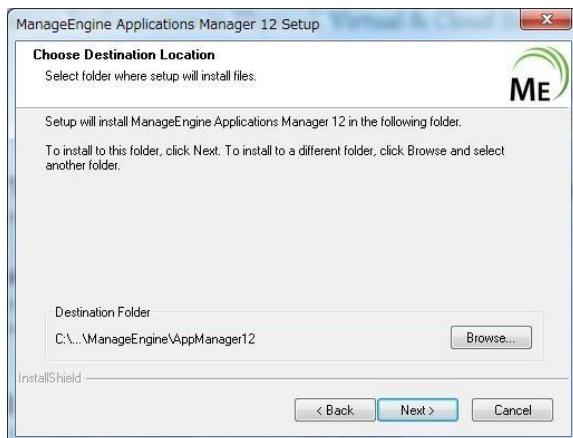


図 6 Applications Manager インストール画面(Windows 画面) (7)

プログラムフォルダの名称を指定し、[Next] (次へ) をクリックします。



図 7 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(8) Web サーバーのポート番号を指定し、[Next] (次へ) をクリックします。デフォルトで指定されるポートは 9090、SSL ポートは 8443 です。

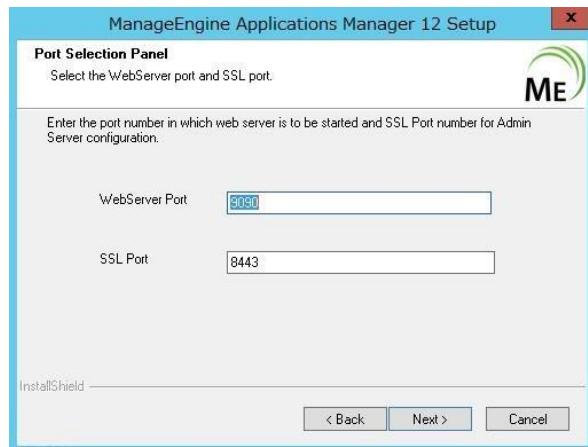


図 8 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(9) 登録情報 (任意) を入力し、[Next]をクリックします。

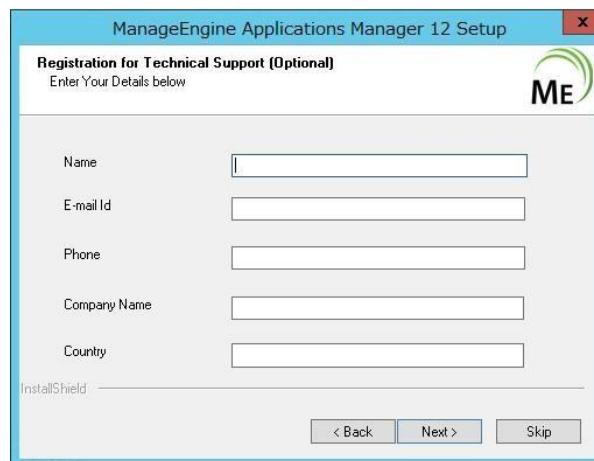


図 9 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(10) これまでのインストール情報を確認し、[Next] (次へ) をクリックします。その後、インストールが実行されます。



図 10 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(11) その後、インストールが実行されます。次のようなウィンドウがしばらく表示されます。

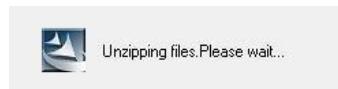


図 11 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(12) 評価版をインストールする場合は「30 day Trial」を、ライセンス購入済みの場合は「Registered User」を選択し、[Next] (次へ) をクリックします。「Registered User」を選択すると、ライセンス適用画面が表示されます。

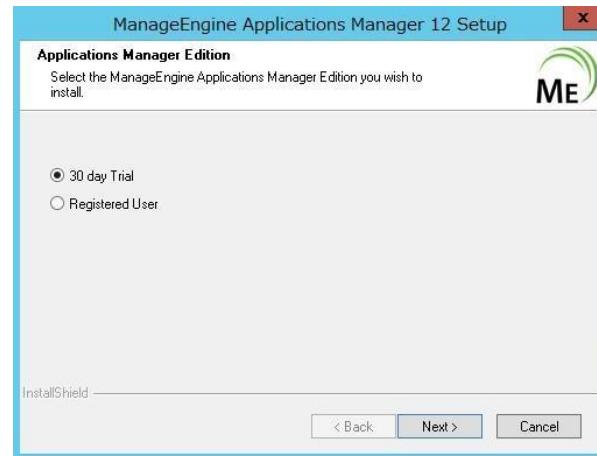


図 12 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(13) 使用するデータベースを選択し、[Next] (次へ) をクリックします。PostgreSQL は、Applications Manager に内蔵されています。※MS SQL を選択する場合、Applications Manager にライセンスが含まれていないので、別途用意する必要があります。

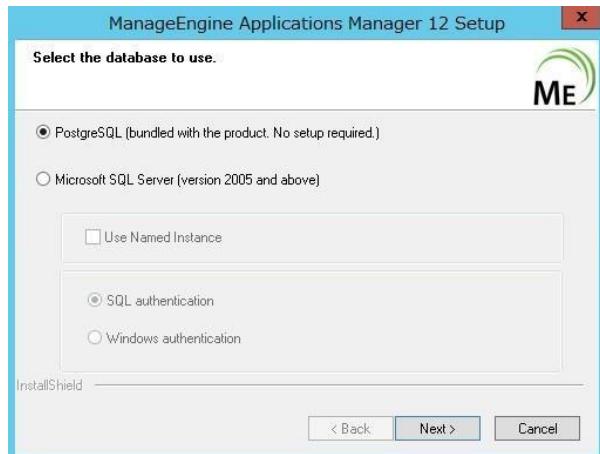


図 13 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(14) 使用するデータベースの選択時に PostgreSQL を選択すると、以下のダイヤログが表示されます。アンチウイルスソフトやバックアップソフトを使用する場合、データベースの動作に影響を及ぼす可能性がありますので、APM\_HOME フォルダ以下をアンチウイルスソフトやバックアップソフトの対象から除外してください。



図 14 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

(15) インストールの完了です。「Launch Applications Manager now」すぐ Applications Manager を起動する)のチェックを、必要に応じて選択します。最後に[Finish] (完了) ボタンをクリックします。(「Launch Applications Manager now」のチェックが入っている場合、Applications Manager が起動します。)

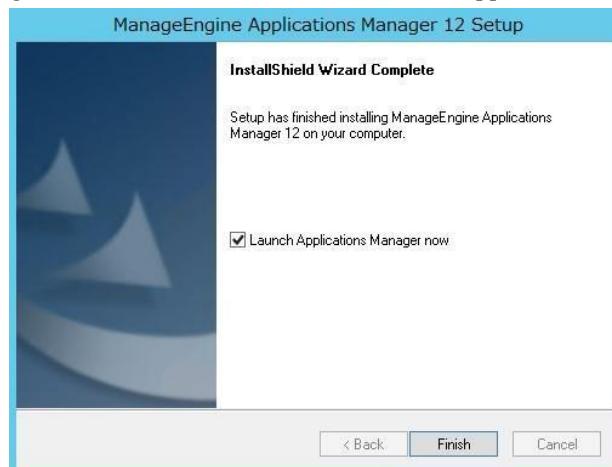


図 15 Applications Manager インストール画面(Windows 画面)

起動後、Web ブラウザーから URL 「http:// サーバー名:9090 (デフォルト値)」を使用し、Web クライアントに接続してください。

---

### 2.3 Professional 版のインストール (Linux の場合)

Linux へのインストールは、GUI の他、CUI でもインストールすることができます。ここでは、CUI 接続によるインストールを紹介します。(GUI については、Windows と同様の手順となります。)

- (1) root ユーザーを使用して、telnet または SSH で Linux にログインします。
- (2) Linux 用の「ManageEngine\_Applications Manager.bin」を任意のディレクトリにコピーします。
- (3) ManageEngine\_Applications Manager.bin に実行権限を付与します。
- (4) ManageEngine\_Applications Manager.bin を実行します。

```
# ./ManageEngine_ApplicationsManager.bin -console
```

- (5) インストールウィザードに従い、インストールを行います。[1]はデフォルト値を含め、現在、選択されている値を表します。変更する場合は、変更する値を入力後、Enter を押下します。

```
Press 1 for Next, 3 to Cancel or 4 to Redisplay [1]
```

- (6) ライセンス条項は、Press ENTER to read the text [Type q to quit]に対して Enter を押下して進みます。
- (7) 「I accept the terms of the license agreement.」を選択後、Enter を押下します。

Please choose from the following options:

[ ] 1 - I accept the terms of the license agreement.

[X] 2 - I do not accept the terms of the license agreement.

To select an item enter its number, or 0 when you are finished: [0] **1**

Enter 0 to continue or 1 to make another selection: [0]

Press 1 for Next, 2 for Previous, 3 to Cancel or 4 to Redisplay [1]

1 を入力

(8) Edition を選択します。「1」を入力し、Enter を押します。

Choose the Applications Manager Edition.

[X] 1 - Professional Edition

Recommended during evaluation. There is no restriction on monitoring capabilities. This version expires in 30 days.

[ ] 2 - Enterprise Edition (Distributed Setup)

It has all features of the Professional Edition plus distribution. You can have multiple installations of Applications Manager and have a consolidated view via the Admin Web Console. This version expires in 30 days.

[ ] 3 - Free Edition

This will install the Professional Trial Edition. This will automatically switch to Free version after 30 days.

To select an item enter its number, or 0 when you are finished: [0] **1**

(9) 言語を選択します。

1 を入力

Please select your language.

[X] 1 - English

[ ] 2 - Simplified Chinese

[ ] 3 - Japanese

[ ] 4 - Vietnamese

[ ] 5 - French

[ ] 6 - German

[ ] 7 - European Spanish

[ ] 8 - Korean

[ ] 9 - Hungarian

[ ] 10 - Traditional Chinese

To select an item enter its number, or 0 when you are finished: [0]

Press 1 for Next, 2 for Previous, 3 to Cancel or 4 to Redisplay [1]

日本語の場合  
3 を入力

(10) 評価版をインストールする場合は「1」(Trial User)を、ライセンス購入済みの場合は「2」(Registered User)を選択します。「Registered User」を選択した場合、ライセンスファイルのパスを指定します。

Press 1 for Next, 2 for Previous, 3 to Cancel or 4 to Redisplay [1]

```
[X] 1 - Trial User
[ ] 2 - Registered User
To select an item enter its number, or 0 when you are finished: [0]
Press 1 for Next, 2 for Previous, 3 to Cancel or 4 to Redisplay [1]
```

(11) Web サーバーのポートを指定します。デフォルトは 9090 番です。

```
You can access Application Manager through web client by http://hostname:port
Enter the Web Server Port [9090]
```

(12) SSL ポートを指定します。デフォルトは 8443 番です。

```
Enter the Web Server SSL Port [8443]
Press 1 for Next, 2 for Previous, 3 to Cancel or 4 to Redisplay [1]
```

(13) データベースを選択します。PostgreSQL は、Applications Manager に内蔵されています。※MS SQL を選択する場合、Applications Manager にライセンスが含まれていないので、別途用意する必要があります。

```
Select the database to use.
[X] 1 - PostgreSQL (bundled with the product. No setup required.)
[ ] 2 - Microsoft SQL Server (version 2005 and 2008)
To select an item enter its number, or 0 when you are finished: [0]
```

(14) インストールディレクトリを指定します。

```
ManageEngine Applications Manager 12 Install Location
Please specify a directory or press Enter to accept the default directory.
Directory Name: [/opt/ME/AppManager12]
```

(15) 登録情報（任意）を入力します。

Registration for Technical Support

Enter Your Details below

Name []

E-mail Id []

Phone []

Company Name []

Country

[X] 1 - --Select--

[ ] 2 - Afghanistan

[ ] 3 - Albania

(中略)

[ ] 87 - Japan

(中略)

To select an item enter its number, or 0 when you are finished: [0]

Enter 0 to continue or 1 to make another selection: [0]

[ ] 1 - Back

[ ] 2 - Skip

[X] 3 - Next

To select an item enter its number, or 0 when you are finished: [0]

省略する場合は、各項目で何も入力せず  
Enter を押下し、ここで 2 を入力しま  
す。

(16) インストール情報を確認のうえ、Enter を押下します。

Details of Installation

Type Of Installation : Professional Edition. Installation Directory :

/opt/ME/AppManager12\_2. Product Size : 208.8MB. Language Selected : Japanese.

DB Back-end : pgsql. Web Server Port : 9099.

Press 1 for Next, 2 for Previous, 3 to Cancel or 4 to Redisplay [1]

(17) インストールの完了です。「3」を押下して完了します。

The InstallShield Wizard has successfully installed ManageEngine Applications Manager 12.  
Choose Finish to exit the wizard. For support, Please Mail to: eval-  
itom@manageengine.com  
Press 3 to Finish or 4 to Redisplay [3]

起動後、Web ブラウザーから URL 「<http://> サーバー名:9090 (デフォルト値)」を使用し、Web クライアントに接続してください。

### 3 起動と停止

#### 3.1 起動

##### (1) Windows の場合

<スタートメニューを利用する場合>

[スタート] >> [プログラム]>> [ManageEngine Applications Manager]メニューより [Applications Manager Start]を実行します。

または、デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします。

<Windows サービスを利用する場合> コンピュータの管理のサービス管理画面で [ManageEngine Applications Manager]を開始します。

##### (2) Linux の場合

コンソールより、以下のコマンドを実行します。

```
# cd [Applications Manager インストールディレクトリ]  
# ./startApplicationsManager.sh &
```

※「&」を指定して、バックグラウンドで起動します。

#### 3.2 停止

##### (1) Windows の場合

<スタートメニューを利用する場合>

[スタート] >> [プログラム]>> [ManageEngine Applications Manager]メニューより [Applications Manager Shutdown]を実行します。

<Windows サービスを利用する場合> コンピュータの管理のサービス管理画面で [ManageEngine Applications Manager]を停止します。

##### (2) Linux の場合

コンソールより、以下のコマンドを実行します。

```
# cd [Applications Manager インストールディレクトリ]
```

```
# ./shutdownApplicationsManager.sh &
```

※「&」を指定して、バックグラウンドで起動します。

---

### 3.3 APM プラグインの起動と停止

APM プラグインは、OpManager の起動、停止と連動しています。APM プラグインを起動するには、OpManager を起動する必要があります。

#### (1) 起動

- Windows の場合

<スタートメニューを利用する場合>

[スタート] >> [プログラム] >> [ManageEngine OpManager] メニューより [OpManager] を実行します。  
または、デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします。

<Windows サービスを利用する場合> コンピュータの管理のサービス管理画面で

[ManageEngine OpManager] を開始します。

<バッチファイルを利用する場合>

[管理者として実行] から起動したコマンドプロンプトで OpManager\_Home/bin ディレクトリより、StartOpManager.bat を実行します。

- Linux の場合

コンソールより、以下のコマンドを実行します。

```
# cd OpManager_Home/bin
# ./StartOpManagerServer.sh &
```

※「&」を指定して、バックグラウンドで起動します。

※libdb-so が無いために、Web サーバーが起動できないことがあります。

その場合、OpManager\_Home/lib/backup/libdb-3.2.so を OpManager\_Home/lib にコピーします。

#### (2) 停止

- Windows の場合

※スタートメニューにシャットダウンのメニューはありません。

<Windows サービスを利用する場合> コンピュータの管理のサービス管理画面で [ManageEngine OpManager]を停止します。

<タスクトレイアイコンを使用する場合> タスクトレイアイコンを使用する場合は、アイコンより、[サーバー停止]を実行します。

<バッチファイルを利用する場合>

[管理者として実行] から起動したコマンドプロンプトで OpManager\_Home/bin ディレクトリより、 ShutDownOpManager.bat を実行します。

・Linux の場合

コンソールより、以下のコマンドを実行します。

```
# cd OpManager_Home /bin
./ShutdownOpManager.sh admin admin
```

※引数にユーザー名（第1引数）とパスワード（第2引数）が必要となります。

---

### 3.4 バックアップとリストア

バックアップとリストアの手順は、以下のソリューションナレッジをご参照ください。

[Applications Manager]

[https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications\\_Manager/?p=161](https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=161)

[APM プラグイン]

[https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications\\_Manager/?p=332](https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=332)

---

## 4 ライセンスの適用と確認

---

### 4.1 ライセンスの登録

[管理]->[製品設定]内の[製品ライセンス]メニューをクリックすると、ライセンス登録画面が表示されます。ゾーホージャパンから送付されるライセンスファイルを[参照]をクリックして指定し、[登録]をクリックし、ライセンスを登録します。

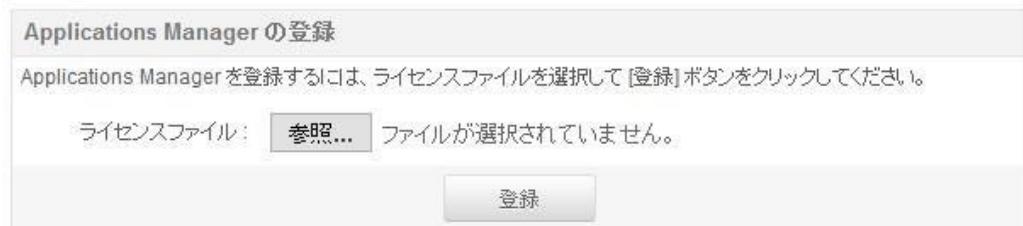


図 16 ライセンスの登録画面

※APM プラグインのライセンスは、OpManager ライセンス適用時に登録されます。

※ライセンスの期限が切れた場合は、バッチやシェルから起動し、そこで表示されるダイアログボックスより、新たに入手したライセンスを適用する必要があります。評価版の期間は 30 ですので、ご注意ください。

#### 4.2 ライセンス情報の確認

[管理]->[ツール]内の[サポート]ページからライセンス情報を確認します。

購入済みオプション情報もこちらから確認できます。

ライセンス情報	
製品	Applications Manager 12
有効期限	never
現在利用中 監視数	23 (管理 - 15 非管理 - 8)
現在利用中 登録ユーザー	1
ライセンスに関する監視数	14
ネットワークデバイス数	0
ライセンスタイプ	登録者
ユーザー名	ZOHO Japan
有効ライセンス: 監視数	1000
有効ライセンス: ユーザ数	10
会社名	ZOHO Japan
SAP アドオン	✓
SAP CCMS アドオンでの SAP 監視	✓
iSeries/AS400 アドオン	✓
Admin アクション付き iSeries/AS400 アドオン	✓
エンドユーザー監視 (EUM) アドオン	✓
APM インサイト Java アドオン	✓
APM インサイト .Net アドオン	✓
J2EE Web トランザクション アドオン	✓
Oracle EBS アドオン	✓
IBM WebSphere MQ アドオン	✓
Microsoft Office SharePoint アドオン	✓
Siebel アドオン	✓
Application Discovery and Dependency Mapping アドオン	✓

図 17 ライセンス情報の確認画面

## 5 各画面の説明

## 5.1 ログイン画面

Applications Manager にアクセスした際に表示されるログイン画面です。初期設定では、ユーザー名とパスワードは共に「admin」です。



図

18 ログイン画面 ※ログイン後、[管理]タブの[ユーザー管理]でパスワードを変更できます。パスワードを忘れた場合は、[パスワードを忘れた場合]から、新しいパスワードを発行し、登録したメールにお知らせします。（メールの送信には、[管理]タブよりメールサーバーの設定が必須となります。）



図

19 ログイン後の画面

※初期設定では、図 19 の Applications Manager のイントロダクションページが表示されます（[インロード]タブ）。このタブは、設定で非表示にできます。[インロード]タブの表示、非表示に関する操作方法は、以下のソリューションナレッジをご覧ください。

[https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications\\_Manager/?p=384](https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=384)

## 5.2 [ホーム]メニュー

ダッシュボードが表示される画面です。デフォルトでは「デフォルトダッシュボード」が表示されます。

The screenshot shows the ManageEngine Applications Manager interface. The top navigation bar includes links for 'ManageEngine' (with a green icon), 'Applications Manager', 'Search', and a help icon. The main dashboard has tabs for 'デフォルトダッシュボード', 'ビジネスビュー', '可用性', 'トップマシン', '詳細', and 'アクション'. The left sidebar lists monitoring groups: '新規監視グループ' (New Monitoring Group), '新規監視' (New Monitoring), 'しきい値プロファイル' (Threshold Profile), 'アクション' (Action), 'アラーム設定' (Alarm Setting), and '監視設定' (Monitoring Setting). The main content area displays two tables: '監視タスク' (Monitoring Tasks) and '監視グループ' (Monitoring Groups). The '監視タスク' table lists various services with their status (green or red dots) and counts of major and minor issues. The '監視グループ' table shows 'Applications Manager' with a green status and 0/3 alarms. The '最近の10アラーム' (Recent 10 Alarms) section on the right lists three recent alarms, each with a red dot and a brief description.

## 20 [ホーム]メニュー

义

### 5.3 [監視] メニュー

追加した監視を一覧表示する画面です。デフォルトでは、追加可能なサーバー、サービス等を一覧表示した「カテゴリービュー」が表示されます。

図 21 [監相] メニコニ

## 5.4 [アラート]メニュー

現在発生しているアラートを表示します。

アラートとは、登録されているアプリケーション、装置の最新の状態を示すものです。

The screenshot shows the 'Alarms' menu in the ManageEngine Applications Manager. The interface includes a search bar, a toolbar with buttons for 'All' (63), 'Critical' (21), 'Warning' (2), 'Info' (40), 'Unacknowledged' (1), 'Resolved' (1), 'JMX Alert' (0), and 'Diagnostic Alarms' (0). The main area displays a table of alerts with columns for 'Name', 'Type', 'Technician', and 'Date/Time'. Each alert entry includes a red, orange, or green status icon and a brief description of the alert.

図 22 [アラート]メニュー

アラートのステータス（重要度）のアイコンの色は以下の通りです。

● 重大 ● 警告 ● クリア ● 非管理

## 5.5 [レポート]メニュー

収集したデータをレポートとして表示します。

The screenshot shows the 'Reports' menu in the ManageEngine Applications Manager. The left sidebar lists various report categories: Application, Database, Application Server, Database Server, Web Server, URL/Web Application, Service, and VM Infrastructure. The main panel displays a list of report types under 'Report Types' and 'Report Filters'. The 'Report Types' section includes 'Availability Report', 'Performance Report', 'Throughput Report', 'Latency Report', and 'Report Selection'. The 'Report Filters' section includes 'Monitoring Group Filter' (set to 'Application'), 'Report Type Filter' (set to '% Report'), 'Alert Summary', 'Monitoring Group Filter for Alarms', and 'Report Selection'.

図 23 [レポート]メニュー

## 5.6 [管理]メニュー

Applications Manager の管理画面です。管理設定の内容については、『6 管理設定』を参照してください。



図 24 [管理]タブ

## 5.7 [APM インサイト]メニュー

APM インサイト（オプション）使用時の監視、設定画面です。APM インサイトについては、『8 監視の設定』内の APM インサイトの項目を参照してください。



図 25 [APM インサイト]タブ

## 5.8 [エンドユーザー監視]メニュー

エンドユーザー監視（オプション）使用時の監視、設定画面です。エンドユーザー監視につきましては、『8 監視の設定』内のエンドユーザー監視の項目を参照してください。

26 [エンドユーザー監視] タブ

## 5.9 各監視画面

Applications Manager に登録した全ての装置、アプリケーションに監視概要画面があります。監視概要では、各監視項目共通で、可用性と現在のステータス、本日の可用性(%)、アップタイム、ダウントIMEが表示されます。装置、アプリケーション固有の監視項目につきましては、上記監視ステータスの下に続けて、または、タブを切り替えて表示します。

27 監視概要画面

## 5.10 タブのカスタマイズ

任意の URL を表示するタブの追加、タブの順序の変更といったタブのカスタマイズを行うことができます。タブのカスタマイズ方法は、以下のとおりです。

- (1) 画面右上のユーザーアイコンをクリックし、表示されるメニューから、[タブの編集]をクリックします。



図

28 [タブの編集]リンク

- (2) タブカスタマイズウィンドウが表示されます。タブの順序入れ替え、任意の監視ページなどへのリンクを配置できます。



図

29 タブカスタマイズ

## 5.11 [サポート]リンク

画面右上の管理者アイコンをクリックして表示されるメニューより、[サポート]リンクをクリックして表示される画面です。[サポート]リンク内の各リンクは、英語版用のリンクです。日本語版に関するお問合せは、以下のお問合せフォームよりお問合せください。

お問合せフォーム：[https://www.manageengine.jp/products/Applications\\_Manager/support.html](https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/support.html) また、『14.2 サポート情報ファイルの取得』も併せてご参考ください。

## 6 管理設定

Applications Manager の設定については、[管理]タブより設定を行います。[管理]タブでは、以下の設定ができます。

### 6.1 ディスカバリーとデータ収集

項目	説明
表 4	ディスカバリーとデータ収集

認証設定	SNMP/WMI/Telnet/SSH/VMware など、装置登録時/監視時に使用する認証情報を設定します。
ライブラリテンプレート	サーバーの機種別、OS 別の監視テンプレートを作成します。プロセステンプレート、サービステンプレートの二種類が作成できます。
追加／ディスカバリ	Applications Manager に装置、サービスを追加します。
カスタム監視タイプ	ユーザー定義の監視タイプを作成できます。
パフォーマンスポーリング	データ収集に関する設定を変更します。パフォーマンス情報収集頻度や、製品毎にデータ収集の設定ができます。
ダウントайムスケジューラ	予定されたメンテナンスの時間など、監視を必要としない期間を設定します。

## 6.2 アラート／アクション

表 5  アラート／アクション  
項目 説明

しきい値／異常値	アラート発生の境界値であるしきい値／異常値を設定します。あらかじめ用意されたテンプレートを編集できるほか、新規作成できます。
アラート設定	登録された装置・アプリケーションへ、アクションの関連付けを行います。
可用性設定	可用性の表示に関する設定をします。
アクション／アラート設定	アクションを実行する条件などを設定します。
アクション	Applications Manager に登録されたアクションを表示します。編集、新規作成ができます。
ログルール	イベントログ、Microsoft Azure ログの監視ルールを設定します。

## アラートエスカレーション

アラート発生後、アラートがクリアされない場合に通知を行う設定をします。

## トラップ

Applications Manager からトラップを送信するための設定や、特定のトラップを受信した場合の動作の設定をします。

## 6.3 製品設定



表 6 製品設定

## 項目

## 説明

接続サーバー

アラート発生の境界値であるしきい値／異常値を設定します。あらかじめ用意されたテンプレートを編集できるほか、新規作成できます。

## グローバル設定

登録された装置・アプリケーションへ、アクションの関連付けを行います。

## ユーザー管理

可用性の表示に関する設定をします。

## アドオン設定

アクションを実行する際の条件などを設定します。

## 製品ライセンス

Applications Manager に登録されたアクションを表示します。編集、新規作成ができます。

## ログ出力

イベントログ、Microsoft Azure ログの監視ルールを設定します。

## パーソナライズ化

アラート発生後、アラートがクリアされない場合に通知を行う設定をします。

## サーバー設定

Applications Manager からトラップを送信するための設定や、特定のトラップを受信した場合の動作の設定をします。

※APM プラグインでは、[ユーザー管理]、[ライセンス登録]は表示されません。APM プラグインのユーザーは OpManager で登録されたユーザーと設定を共有します。APM プラグインのライセンスは、OpManager のライセンスと同一です。

## 6.4 ポータルとの連携



表 7 ポータルとの連携

## 項目

## 説明

REST API

他のサービス／製品と連携できる REST API 用のキーを生成します。

## JSON フィード

Applications Manager のデータを他サービス／ページに表示するための URL を表示します。

## ワールドマップ

ワールドマップビューを作成します。

## ダッシュボード

新規ダッシュボードを作成します。

## 6.5 レポート



表 8 レポート

項目	説明
レポート設定	レポート出力時の設定、データ保存期間、レポートに印字するコゴの設定をします。
レポートの有効化	Applications Manager で取得する監視項目の追加／削除を行います。
スケジュールレポート	定期的にレポートを出力するスケジュールを作成します。
業務時間	監視に関する通知やレポート出力を行う時間帯を設定します。
SLA 管理	サービス品質の基準を作成します。

## 6.6 ツール



表 9 ツール

項目	説明
セルフ監視	Applications Manager インストールサーバー自身の監視に関する設定を行います。
ファイル/バイナリのアップロード	Applications Manager ディレクトリ内に JAR/MIB/スクリプトファイルをアップロードします。
サービスの停止	Applications Manager をシャットダウンします。
サポート	サポート用の情報を参照できます。インストール中の Applications Manager のステータスを表示します。

※APM プラグインでは、[サービスの停止]は表示されません。APM プラグインの起動と停止は OpManager と連動しています。

## 7 監視の登録

装置およびアプリケーションを Applications Manager で監視するための監視登録を行います。

## 7.1 監視の登録

- (1) サブメニューの[新規監視]または[管理]タブ内の「ディスカバリとデータ収集」カテゴリー内の[追加／ディスカバリ]をクリックします。
- (2) 追加したいアプリケーションまたは装置の種類を選択します。

(3) 選択した監視タイプごとの入力項目に必要事項を入力し、[監視追加]ボタンをクリックします。監視登録に必要な項目は、各監視タイプにより異なります。

(4) 認証情報は、監視登録毎に入力する方法の他、認証情報マネージャーに予め登録した認証情報を使用する方法があります。認証情報マネージャーに登録した認証情報を使用するには「認証情報の詳細」欄で「認証情報一覧から選択」を選択し、一覧から適切な情報を選択します。認証情報マネージャーについて「7.2 認証の設定」をご参照ください。

図

30 Oracle 監視追加画面

## 7.2 認証の設定

認証情報を認証情報マネージャーに登録する方法は次の通りです。

(1)[管理]タブから「ディスカバリとデータ収集」カテゴリー内の[認証設定]をクリックします。

(2)[新しい認証情報を追加]リンクをクリックして、認証を追加します。(デフォルトでは SNMP 認証が 1 つ設定されています。)

(3)[認証情報タイプ]を選択します。登録可能な各認証タイプは以下の通りです。

◆ サーバー	◆ データベースサーバー	◆ ミドルウェア/ポータル
「Telnet」	「Cassandra」	「Microsoft MQ (MSMQ)」
「SNMP v1/v2」	「Couchbase」	「Microsoft Office SharePoint」
「SNMP v3」	「DB2」	「Microsoft BizTalk Server」
「SSH」	「HBase」	「RabbitMQ」
「WMI」※	「Informix」	「ERP」
	「MongoDB」	「Oracle EBS」
◆ アプリケーションサーバー	「MS SQL」	「Microsoft Dynamics CRM」
「Apache サーバー」	「MySQL」	



(4)[認証情報名]に任意の名前を入力します。

(5)各認証の必要項目を入力します。

- ・Telnet 認証では、ユーザー名、パスワード、コマンドプロンプトを設定します。

認証情報の追加/編集

認証情報タイプ Telnet

認証情報名 \*

ユーザー名

パスワード

コマンドプロンプト \$

Save キャンセル

図

31 Telnet 認証の設定画面

- ・SNMP 認証では、コミュニティ名とタイムアウトを設定します。SNMPv3 認証では、ユーザー名、コンテキスト名、認証プロトコル、パスワードについても設定します。

認証情報の追加/編集

認証情報タイプ: SNMP v1v2

認証情報名: \*

読み込みコミュニティ: \*\*\*\*\*

タイムアウト: 5

Save キャンセル

図 32 SNMPv1v2 認証の設定画面

- SNMP 認証では、コミュニティ名とタイムアウトを設定します。SNMPv3 認証では、ユーザーネーム、コンテキスト名、認証プロトコル、パスワードについても設定します。
- (6)[Save／保存]をクリックし、入力した情報を認証情報マネージャーに登録します。

## 8 監視の設定

Applications Manager で実行する各監視を説明します。

### 8.1 エレメント監視 - Oracle 監視

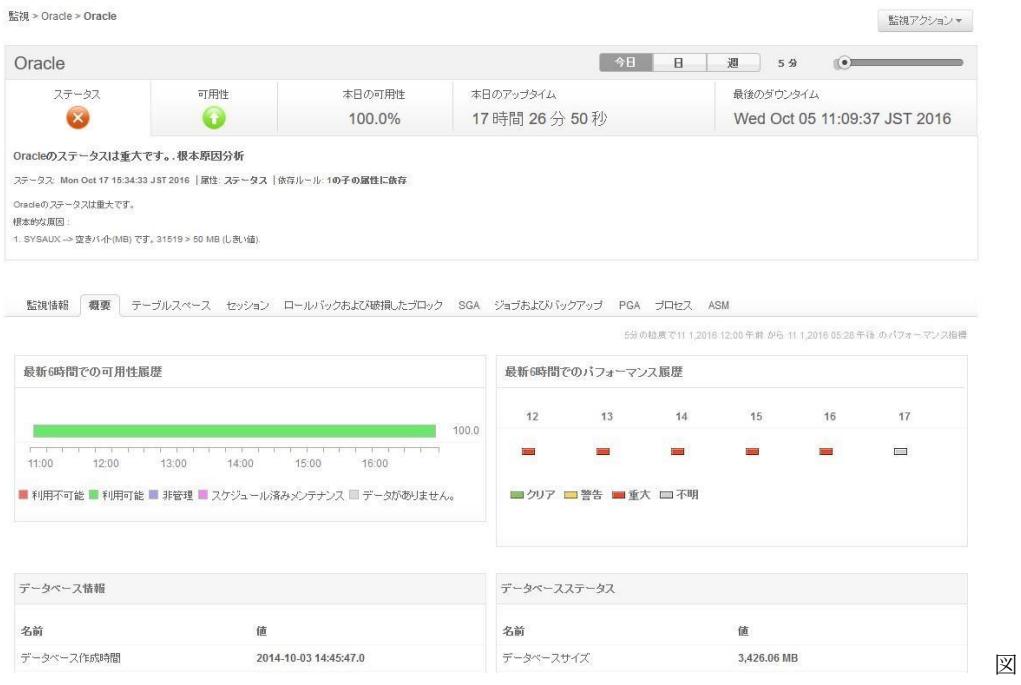
(1) Oracle 監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

- 表示名\*
- ホスト名/ IP アドレス\*
- サブネットマスク\*
- ポート番号\*
- 認証情報 (ユーザーネーム／パスワード)
- インスタンス名 (サービス名) \*
- ポーリング間隔\*

\*入力必須項目です。

(2) 登録した Oracle の監視ページに移動します。

(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)



33 Oracle 監視 詳細ページ

(3) 可用性とステータスが色別に表示されます。ステータスの詳細がアイコンの下に表示されます。



図

34 Oracle 監視 可用性とステータス監視可用性のアイコンの色は右の通りです： アップ

ダウン

ステータス（重要度）のアイコンの色は右の通りです： 重大 警告 クリア 非管理

※Applications Manager で計測したアプリケーション・装置の可用性やステータスに従ってアラートを発生させるには、しきい値・異常値の設定が必要です。しきい値、異常値の設定方法は『10 障害管理の設定』をご参照ください。

(4) [概要]タブでは、時間毎の可用性とパフォーマンスの履歴が最新 6 時間表示されます。可用性とパフォーマンス履歴の下には、監視タイプ毎に固有の監視情報が表示されます。Oracle 監視では、[データベース情報]、

[データベースステータス]、[接続統計]、[ユーザーアクティビティ]、[利用可能な陪臍が一番少ないテーブルスペース]、[ヒット率]、[SGA の共有]、[Oracle DB リンク]が表示されます。



図

### 35 [概要]タブの可用性・パフォーマンス

(5) Oracle 監視では、[テーブルスペース]、[セッション]、[ロールバックおよび破損したブロック]、[SGA]、[ジョブおよびバックアップ]、[PGA]、[プロセス]、[ASM]タブがあり、それぞれの監視項目を表示できます。



図 36 [テーブルスペース]タブ

(6) 各監視項目右側の[アラート設定]列の アイコンをクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

---

## 8.2 エレメント監視・MS SQL (SQL Server) 監視

(1) MSSQL 監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

- 表示名\*
- ホスト名/ IP アドレス\*
- サブネットマスク\*
- ポート番号\*
- 認証情報\*
- 認証タイプ (SQL / Windows)
- ユーザー名\*
- パスワード
- 名前付きインスタンスを使用して接続
- ポーリング間隔\*

\*入力必須項目です。

(2) 登録した MSSQL 監視ページに移動します。

(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)

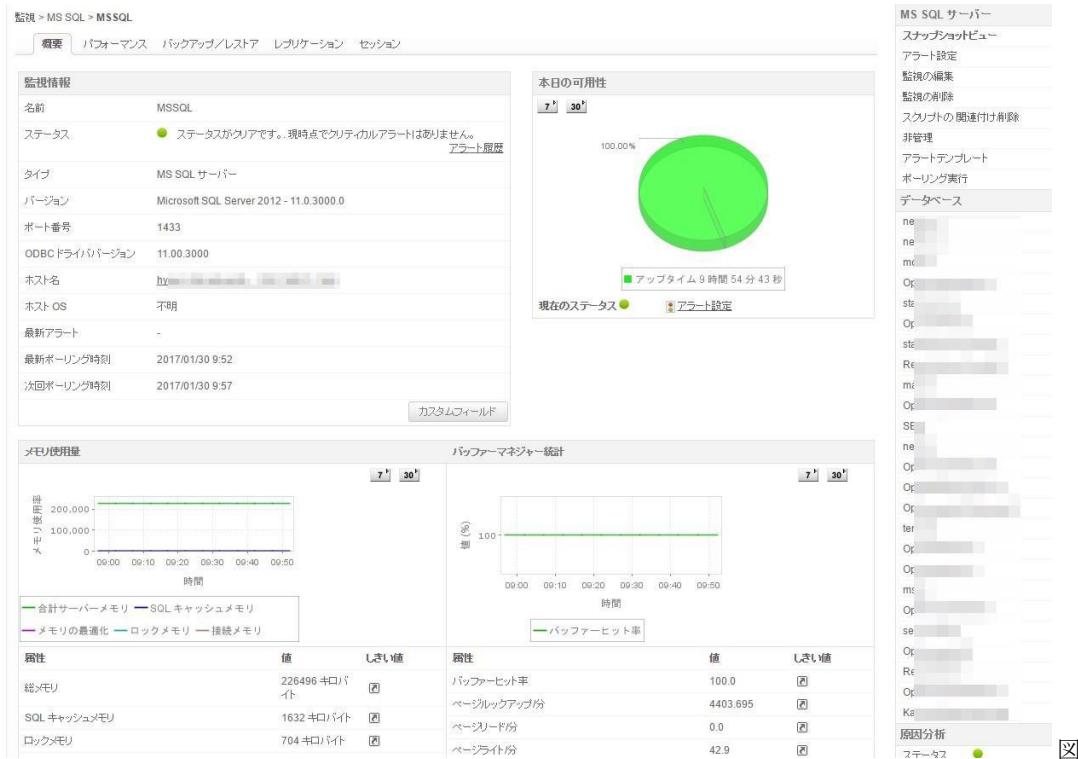
(3) 可用性とステータスが色別に表示されます。ステータスの詳細がアイコンの下に表示されます。

監視情報	
名前	MSSQL
ステータス	<span style="color: green;">●</span> ステータスがクリアです。現時点でクリティカルアラートはありません。 <a href="#">アラート履歴</a>
タイプ	MS SQL サーバー
バージョン	Microsoft SQL Server 2012 - 11.0.3000.0
ポート番号	1433
ODBC ドライババージョン	11.00.3000

図 37 MS SQL 監視 可用性とステータス可用性のアイコンの色は右の通りです：



※Applications Manager で計測したアプリケーション・装置の可用性やステータスに従ってアラートを発生させるには、しきい値・異常値の設定が必要です。しきい値、異常値の設定方法は『10 障害管理の設定』をご参照ください。



38 MS SQL 監視画面

(4) [概要]タブでは、時間毎の可用性とパフォーマンスの履歴が最新 6 時間表示されます。可用性とパフォーマンス履歴の下には、監視タイプ毎に固有の監視情報が表示されます。MS SQL 監視では[メモリ情報][バッファーマネージャー統計][接続統計][キャッシュ情報][ロック詳細][SQL 統計][ラッチ情報][アクセスメソッド情報][ジョブ情報][データベース情報]が表示されます。

(5) MS SQL 監視では[パフォーマンス][バックアップ/レストア][レプリケーション][セッション (13.x~) ]タブがあり、それぞれの監視項目を表示できます。



39 [パフォーマンス]タブ

(6) 各監視項目右側の[アラート設定]列の アイコンをクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

### 8.3 エレメント監視 - Apache サーバー監視

(1) Apache サーバー監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

- 表示名\*
- ホスト名/ IP アドレス\*
- サブネットマスク\*
- ポート番号\*
- SSL が有効 (Apache サーバー上で SSL が有効の場合は選択)
- 認証が有効 (Apache サーバーで認証が必要な場合は選択し、認証情報を入力)
- Apache サーバーステータス URL の修正 (Apache サーバーURL が異なる場合は、選択し、正しい URL を入力)
- ポーリング間隔\*

\*入力必須項目です。

(2) 登録した Apache サーバーの監視ページに移動します。

(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、または作成した監視グループからアプリケーション・

装置を選択して表示できます。)



40 Apache サーバー監視 詳細ページ

(3) 画面右側のメニュー下の[原因分析]に、Apache サーバーの可用性とステータスが色別に表示されます。



図 41 Apache サーバーの可用性とステータス可用性のアイコンの色は右の通りです：

アップ ダウン



ステータス（重要度）のアイコンの色は右の通りです： 重大 警告 クリア

(4) Apache サーバー監視ページにて監視可能な項目は以下の通りです。

可用性、ステータスの概要、[合計アクセス数]\*1、[合計転送 キロバイト]\*1、[応答時間]、[リクエスト/分]\*2、[バイト/リクエスト]\*1、[ビジー・待機サーバー]\*2、[転送バイト数]\*2、[サーバースナップショット]\*3

\*1 - Apache の設定より[拡張ステータス]を有効にする必要があります。有効化の手順は以下の通りです。

1. "httpd.conf" ファイル内の"ExtendedStatus" 属性位置に移動し、コメントアウトを外します。

2. 記述が存在しない場合は、「**ExtendedStatus On**」を追記します。

3. 設定ファイルを保存し、Apache サーバーを再起動します。

\*2 - Apache の設定より[サーバーステータス]を有効にする必要があります。有効化の手順は以下の通りです。

1. Apache の http.conf ファイルの"Location /server-status" が記述された箇所に移動します。

2. "Location /server-status" というタグのコメントを外し、SetHandler サーバーステータスを有効化します。

3. 属性を " Deny from all" から " Allow from all" に変更します。

4. "LoadModule status\_module modules/mod\_status.so" のコメントアウトを外します。

5. 設定ファイルを保存し、Apache サーバーを再起動します。

\*3 · Apache サーバーがインストールされているサーバーを Applications Manager に監視追加すると表示されます。監視追加可能なサーバーは、AIX、AS400/iSeries、FreeBSD / OpenBSD、Linux †、Mac OS、Novell、Sun Solaris、HP-UX / Tru64、Windows クラスター †、Windows †です。 † 日本法人保守サポート対象

(5) 各監視項目右下の  アラート設定 をクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

## 8.4 エレメント監視 - IIS 監視

(1) IIS 監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

- 表示名\*
- ホスト名/ IP アドレス\*
- サブネットマスク\*
- ポート番号\*
- SSL が有効
- ポーリング間隔\*

(2) 登録した IIS サーバーの監視ページに移動します。

(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)



図

42 IIS 監視画面

- 

(3) 可用性とステータスが色別に表示されます。ステータスの詳細がアイコンの下に表示されます。

監視情報	
名前	IISサーバー
ステータス	<span style="color: green;">●</span> ステータスがクリアです。現時点でクリティカルアラートはありません。 <a href="#">アラート履歴</a>
タイプ	IISサーバー
ポート番号	80
ホスト名	[REDACTED]

図 43

IIS 監視 可用性とステータス可用性のアイコンの色は右の通りです： アップ ダウン

ステータス（重要度）のアイコンの色は右の通りです： 重大 警告 ● クリア ● 非管理

※Applications Manager で計測したアプリケーション・装置の可用性やステータスに従ってアラートを発生させるには、しきい値・異常値の設定が必要です。しきい値、異常値の設定方法は『10 障害管理の設定』をご参照ください。

(4) IIS 監視ページにて監視可能な項目は以下の通りです。

可用性、ステータスの概要、[応答時間]、[Web サイト統計]\*1、[アプリケーションプール]\*1[サーバースナップショット]\*1

\*1 - IIS がインストールされているサーバーを WMI を使用して Applications Manager に監視追加すると表示されます。

(5) 監視項目右の  アイコンをクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

## 8.5 エレメント監視 - Tomcat サーバー監視

(1) Tomcat の設定ファイル「tomcat-users.xml」より、Tomcat 管理マネージャーへのアクセス権限を持つユーザーを作成します。

例：Tomcat 7.x の場合、以下の記述を「tomcat-users.xml」に追記します。以下の例の場合、次項の Applications Manager への登録で使用する認証情報は、ユーザー名「apm」、パスワード「passwd」となります。

```
<role rolename="manager-jmx"/>
<role rolename="manager-gui"/>
<user username="apm" password="passwd" roles="manager-jmx, manager-gui "/>
```

(2) Tomcat サーバー監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

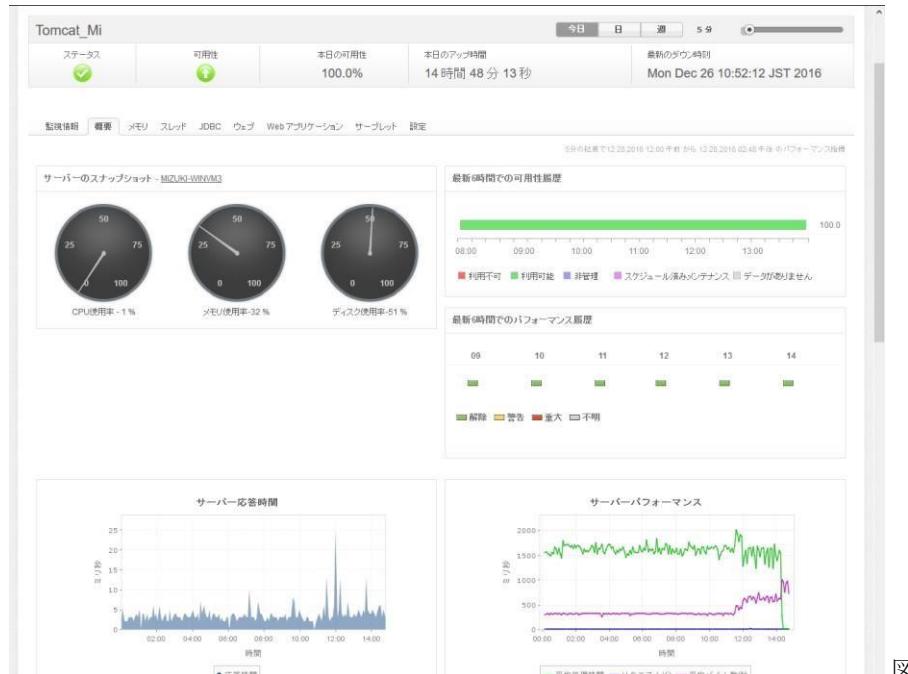
- 表示名\*
- ホスト名/ IP アドレス\*
- ポート番号\*
- 認証情報の詳細\* (SSL が有効の場合は、チェックボックスを選択します。)
- Tomcat バージョン\*

- ユーザー名\*
- パスワード
- ポーリング間隔\*

\*入力必須項目です。

(3) 登録した Tomcat サーバーの監視ページに移動します。

(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)



44 Tomcat サーバー監視画面

(4) 可用性とステータスが色別に表示されます。ステータスの詳細がアイコンの下に表示されます。



図 45 Tomcat サーバーの可用性とステータス可用性のアイコンの色は右の通りです :

アップ	ダウン	●	●	●	●
		ステータス（重要度）のアイコンの色は右の通りです : 重大 警告 クリア 非管理			

※Applications Manager で計測したアプリケーション・装置の可用性やステータスに従ってアラートを発生させるには、しきい値・異常値の設定が必要です。しきい値、異常値の設定方法は『10 障害管理の設定』をご参照ください。

(5) [概要]タブでは、時間毎の可用性とパフォーマンスの履歴が最新 6 時間表示されます。可用性とパフォーマンス履歴の下には、各監視タイプに固有の監視情報が表示されます。Tomcat 監視では、[サーバー応答時

間]、

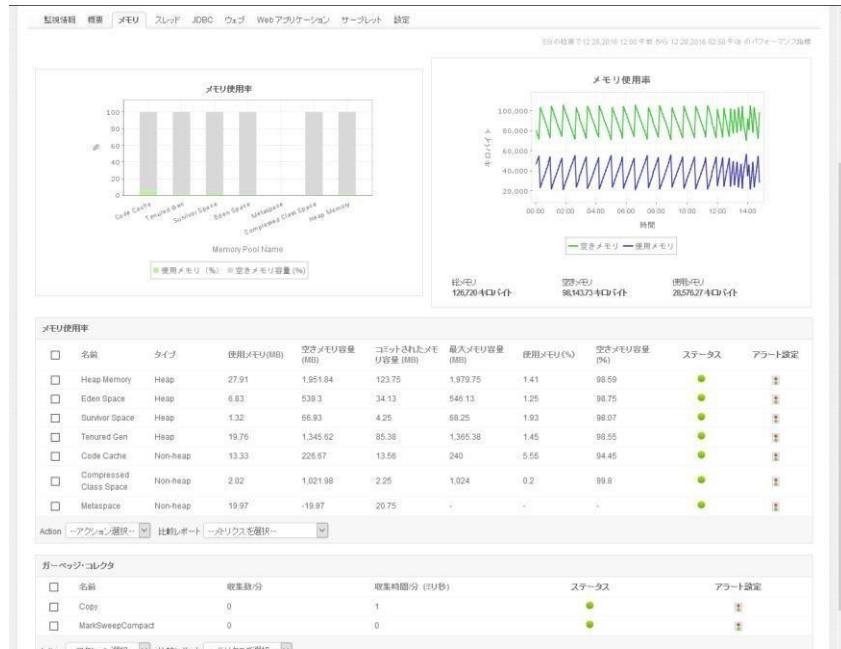
[サーバーパフォーマンス]、[スレッド]、[JDBC]、[ウェブ]、[Web アプリケーション]、[サーブレット]、[設定]



図

#### 46 [概要]タブの可用性・パフォーマンス

(6) Tomcat サーバー監視では、[メモリ]、[スレッド]、[JDBC]、[ウェブ]、[Web アプリケーション]、[サーブレット]タブがあり、それぞれの監視項目を表示できます。



図

#### 47 [メモリ]タブ

(7) 各監視項目右側の[アラート設定]列の アイコンをクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

## 8.6 Amazon Web Service (AWS) 監視

(1) AWS Management Console にログインし、画面右上のアカウント登録名をクリックします。 (2) 表示されるメニューから、「セキュリティ認証情報」を選択し、「アクセスキー」を開きます。

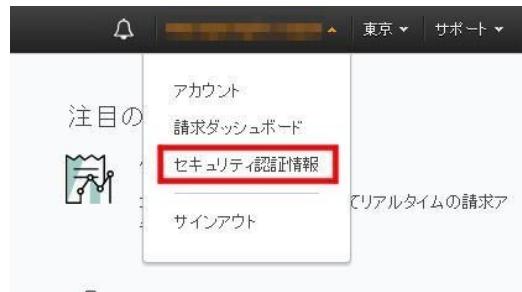


図 48 AWS Management Console セキュリティ認証情報

(3) ここで任意のアクセスキーID および対応するシークレットアクセスキーを選択、もしくは、新規アクセスキーを作成します。

(4) AWS 監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

- 表示名\*
- アクセスキー\*
- シークレットアクセスキー\*
- ポーリング間隔\*

\*入力必須項目です。

(5) 登録した AWS の監視ページに移動します。

(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)



図 49 AWS 監視 [インスタンスタブ]

(6) 可用性とステータスが色別に表示されます。ステータスの詳細がアイコンの下に表示されます。



図

50 AWS 監視の可用性とステータス可用性のアイコンの色は右の通りです：

● アップ

● ダウン

ステータス（重要度）のアイコンの色は右の通りです： 重大 ● 警告 ● クリア ● 非管理

※Applications Manager で計測したアプリケーション・装置の可用性やステータスに従ってアラートを発生させるには、しきい値・異常値の設定が必要です。しきい値、異常値の設定方法は『10 障害管理の設定』をご参照ください。

(7) [インスタンス]、[RDS インスタンス]、[S3 バケット]タブより、各サービスの詳細情報が表示できます。[インスタンス](EC2 インスタンス)、[RDS インスタンス]は、インスタンス名を選択し、各インスタンスの詳細ページから監視情報が表示できます。

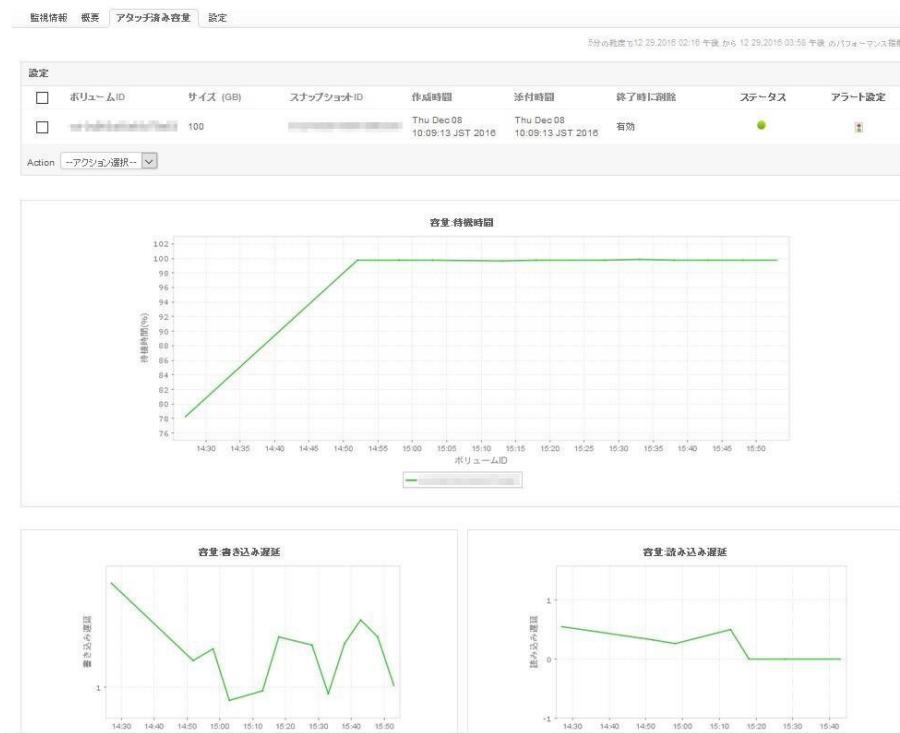


図 51 EC2 インスタンス監視 [アタッチ済み容量]タブ

各監視項目右側の[アラート設定]列の [ ] アイコンをクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

## 8.7 データベースクエリ監視

(1) データベースクエリ監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

- 表示名\*
- ホスト名/ IP アドレス\*
- ポート番号\*
- データベース (クエリを監視するデータベースの種類) \*
- ユーザー名
- パスワード
- データベース名\*
- JDBC URL
- クエリ\* (登録可能な SQL クエリ数は 5 つです。クエリ末尾のセミコロンは不要です。)
- クエリを表示\*
- ポーリング間隔\*

\*入力必須項目です。

(2) 登録したデータベースクエリ監視の画面に移動します。

(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)

(3) [実行時間]欄に表示されたクエリが入力したクエリであることを確認します。

\* 登録時に[クエリを表示]で「はい」を選択した場合、以下の設定を行います。 a.

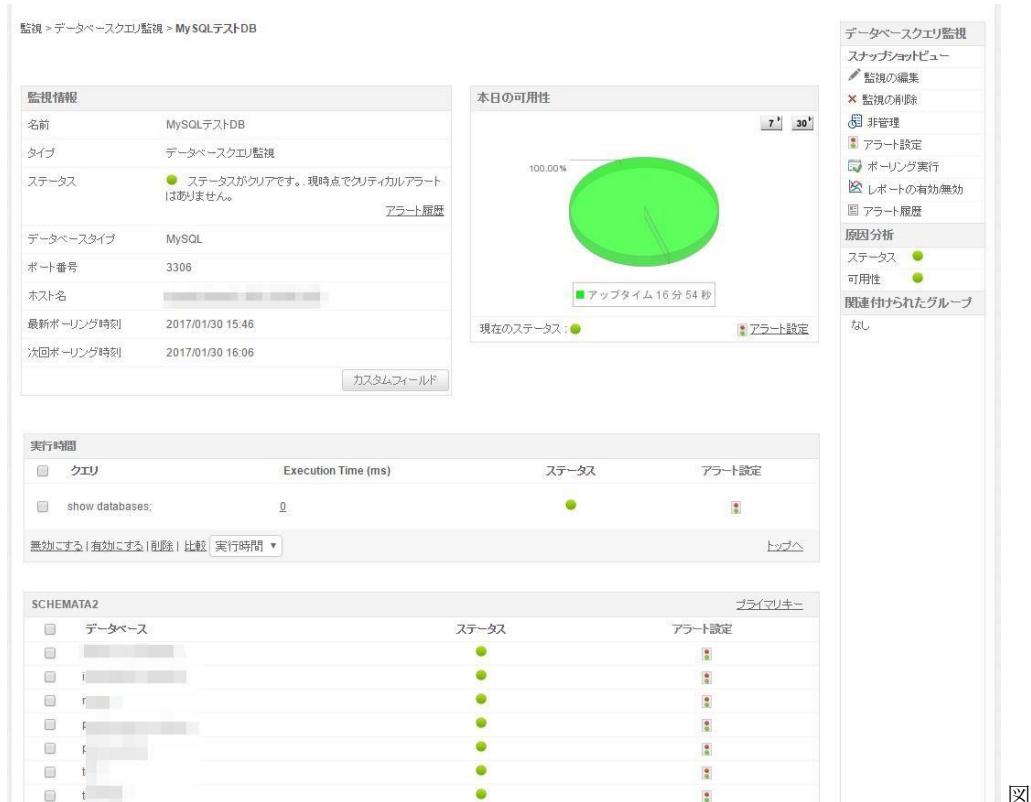
下の[テーブル名]欄右側の[プライマリキー]リンクをクリックします。



図

52 [プライマリキー]リンク

- b. テーブルのプライマリキー (主キー) となる属性を選択し、[更新]をクリックします。
- c. 画面右の[データベースクエリ監視]メニューより、[ポーリング実行]をクリックし、画面を更新すると、監視が開始されます。



53 データベースクエリ監視

(4) 可用性とステータスが色別で表示されます。ステータスの詳細がアイコンの下に表示されます。



図

54 データベースクエリ監視 可用性とステータス可用性のアイコンの色は右の通りです：

アップ ダウン

ステータス（重要度）のアイコンの色は右の通りです： 重大 警告 クリア 非管理

※Applications Manager で計測したアプリケーション・装置の可用性やステータスに従ってアラートを発生させるには、しきい値・異常値の設定が必要です。しきい値、異常値の設定方法は『10 障害管理の設定』をご参照ください。

(5) 画面上部に現在の可用性と、本日の可用性の割合が表示されます。可用性の下には、各監視タイプに固有の監視情報が表示されます。データベースクエリ監視では、[実行時間][スキーマ] ([クエリを表示]で「はい」を選択した場合) [エラー] (エラーになったクエリが存在する場合) が表示されます。

(6) 各監視項目右側の[アラート設定]列の アイコンをクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

---

## 8.8 ファイル/ディレクトリ監視

(1) ファイル監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

- 表示名\*
- タイプ\* (ファイルを選択)
- ファイルのロケーション\* (リモートサーバーを選択した場合は、ホストを選択します。)
- ファイル名\*
- コンテンツチェックを実行
- ファイル/ディレクトリの経過チェックを実行
- ポーリング間隔\*
- タイムアウト\*

\*入力必須項目です。

(2) ディレクトリ監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

- 表示名\*
- タイプ\* (ディレクトリを選択)
- ファイルのロケーション\* (リモートサーバーを選択した場合は、ホストを選択します。)
- ファイル名\*
- ファイル/ディレクトリの経過チェックを実行
- サブディレクトリカウントを表示
- ポーリング間隔\*
- タイムアウト\*

\*入力必須項目です。

(3) ファイル監視で[コンテンツチェックを実行]を選択すると、監視するファイルの中身を監視ができます。

次の図の例では、【前回のポーリングから最新ポーリングまでの間にファイルに追加されたテキスト中に「error」「outofmemory」「exception」のいずれか 2 つの単語が表示された場合にステータスをダウンにする】設定です。



図

### 55 コンテンツチェック 設定例

(4) [ファイル/ディレクトリの経過チェックを実行]を選択した場合、ファイル/ディレクトリの更新期間の監視ができます。

次の図の例では、【該当のファイルが 10 分以内に更新されなかった場合に、ステータスをダウンにする】設定です。



図

### 56 ファイル/ディレクトリの経過チェック 設定例

(5) 登録したファイル/ディレクトリ監視の画面に移動します。

(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)



57 ファイル / ディレクトリ監視画面

(6) 可用性とステータスが色別で表示されます。ステータスの詳細がアイコンの下に表示されます。



図

58 ファイル / ディレクトリ監視 可用性とステータス可用性のアイコンの色は右の通りです：

アップ ダウン

ステータス (重要度) のアイコンの色は右の通りです： 重大 警告 クリア

(7) 画面上部に現在の可用性と、本日の可用性の割合が表示されます。可用性の下には、ファイルまたはディレクトリの情報が表示されます。

(8) 各監視項目右側の[しきい値]列の アイコンをクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

## 8.9 URL シーケンス監視

(1) トランザクションレコーダーを下記の Web サイトからダウンロードします。「Downloads」の表にある

[Recorder.exe]をクリックします。

[https://www.manageengine.com/products/applications\\_manager/transaction-recorder-download.html](https://www.manageengine.com/products/applications_manager/transaction-recorder-download.html)

※Applications Manager 上から新規監視を作成することはできません。

(2) レコーダーをインストールウィザードに従ってインストールします。詳細なインストール手順は以下に記載のソリューションナレッジをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications\\_Manager/?p=582](https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=582)

(3) トランザクションレコーダーを起動します。起動後、以下の画面が表示されます。[新規]ボタンをクリックし、アドレスバーに記録を開始したい Web サービス等の URL を入力し、[Enter]キーを押下します。

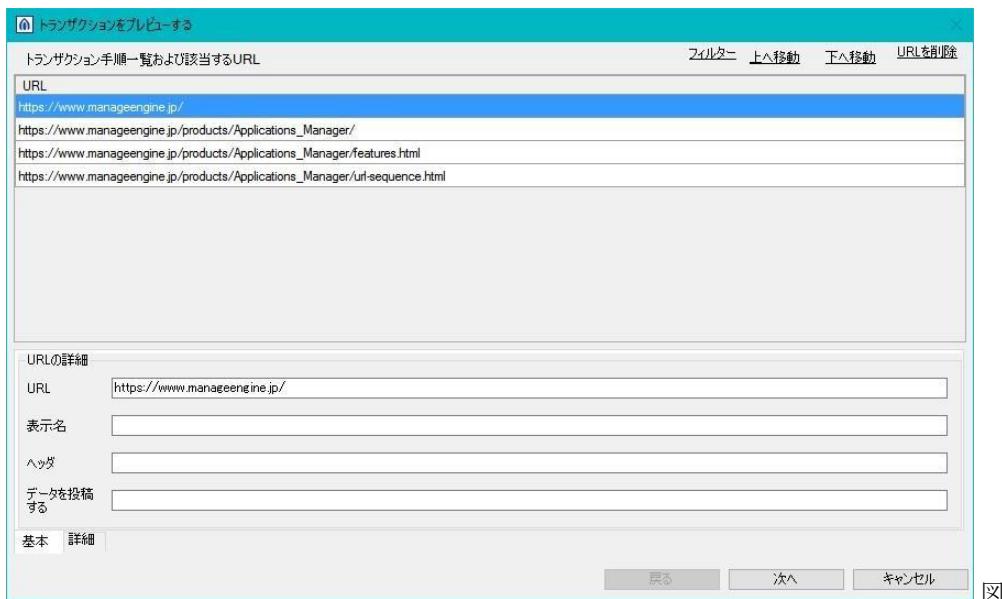


図

59 トランザクションレコーダーの起動後画面

(4) トランザクションレコーダー上より、監視したい順番にページのリンクを辿り、ページを表示します。記録終了後、画面右上の[プレビューおよび保存]ボタンをクリックします。

(5) Applications Manager 本体のログイン認証情報を入力後、作成したシナリオが表示されます。URL の表示名、ヘッダー等が編集可能です。



60 トランザクションプレビュー画面

(6) 設定が完了したら、[次へ]を押下し、Applications Manager 上での URL シーケンスの表示名、ポーリング間隔を設定します。ログイン認証情報に間違いが無ければ[保存]ボタンを押下して、設定を Applications Manager に保存します。

(7) Web ブラウザから Applications Manager にアクセスし、登録した URL シーケンスの監視ページに移動します。  
(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)

(8) 監視に成功すると、設定した間隔毎に Web サービスの監視が実施され、結果が表示されます。  
可用性のアイコンの色は右の通りです： アップ ダウンステータス (重要度) のアイコンの色は右の通りです： 重大 警告 クリア 非管理



図

### 61 URL シーケンス監視画面

(9) URL シーケンス監視ページにて監視可能な項目は以下の通りです。

登録した各 URL の可用性とステータス、応答時間合計、応答時間の詳細、URL ごとの応答時間

(10) [URL シーケンス]から各 URL を選択すると、各 URL についてのパフォーマンス情報、ページサイズの詳細情報が表示されます。

(11) 各監視項目右下の **アラート設定** をクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

## 8.10 エンドユーザ一体感監視

エンドユーザ一体感監視は、エンドユーザー監視用エージェントを入れた機器から各監視のパフォーマンスを監視する機能です。利用者側から見たアプリケーションのパフォーマンスを計測できます。

(1) エンドユーザ一体感監視エージェントのインストーラーを以下のサイトからダウンロードします。

[https://www.manageengine.jp/products/Applications\\_Manager/download.html](https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/download.html)

(2) エンドユーザ一体感を監視するロケーションのマシンにエージェントをインストールします。インストール手順につきましては、以下のソリューションナレッジをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications\\_Manager/?p=542](https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=542)

(3) エージェントが正しくインストールされていると、エージェントを起動した際に Applications Manager の [エンドユーザー監視] タブに表示されます。



62 エンドユーザー監視エージェント表示

(4) `http://[エージェントインストールサーバー]:9999` をブラウザー上から表示すると、エンドユーザー一体感監視エージェントの設定画面が表示されます。

※APM プラグインをご使用の方は、[編集]ボタンをクリックし、「OpManager Plugin」の項目を選択します。

サーバー情報	
サーバーホスト	localhost
ユーザー名	admin
プロトコル	<input checked="" type="radio"/> http <input type="radio"/> https
OpManager Plugin	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> プロキシの有効化 (プロキシを通してエージェントがサーバーにアクセスすることを有効にする)	
プロキシホスト	プロキシポート
ユーザー名	パスワード

メールサーバー設定	
SMTPサーバー	smtp
送信元アドレス	noreply@zoho.com
<input type="checkbox"/> SMTPサーバー認証	<input type="checkbox"/> メール設定の有効化
ユーザー名	SMTPポート 25 宛先アドレス user@domain.com パスワード

63 エンドユーザー監視エージェント設定画面

(5) [更新]ボタンを押し、エンドユーザー一体感監視エージェントの再起動後、変更した設定が反映されます。

(6) DNS 監視、LDAP サーバー監視、メールサーバー監視、Ping 監視のエンドユーザー一体感を監視するには、通常の[新規監視]・[監視の編集]ページより、エージェントを関連付けて監視を保存します。

監視の編集

表示名\* DNS

ターゲットアドレス\* [REDACTED]

検索するアドレス\* [REDACTED]

タイムアウト(in Seconds)\* 10

レコードタイプ -なし-

検索フィールド -なし-

検索値

ポーリング間隔\* 5 分

監視インスタンスをロケーションエージェントに関連付け

サーバーで起動  エージェントで起動 (End User Monitoring) End User Monitoring Add-on の詳細を表示

すべて選択

demo-apm

更新 リセット キャンセル

図

## 64 DNS 監視 エンドユーザー監視エージェント関連付け

(7) エンドユーザー監視エージェントを関連付けた監視の詳細ページは以下のようになります。Applications Manager 本体からの監視は「監視名 - Local」、エージェントからの監視は「監視名 - エージェント名」となります。



図

## 65 エンドユーザー監視実施画面

(8) リアルブラウザ監視の追加方法につきましては、次項『8.7 リアルブラウザ監視』をご参照ください。

(1) リアルブラウザーレコーダーを下記の Web サイトからダウンロードします。

「Customers using build No.12400 & above」の行にある[Recorder.exe]をクリックします。

[https://www.manageengine.com/products/applications\\_manager/real-browser-recorder-installation.html](https://www.manageengine.com/products/applications_manager/real-browser-recorder-installation.html)

※リアルブラウザーレコーダーは、Linux には対応しておりません。

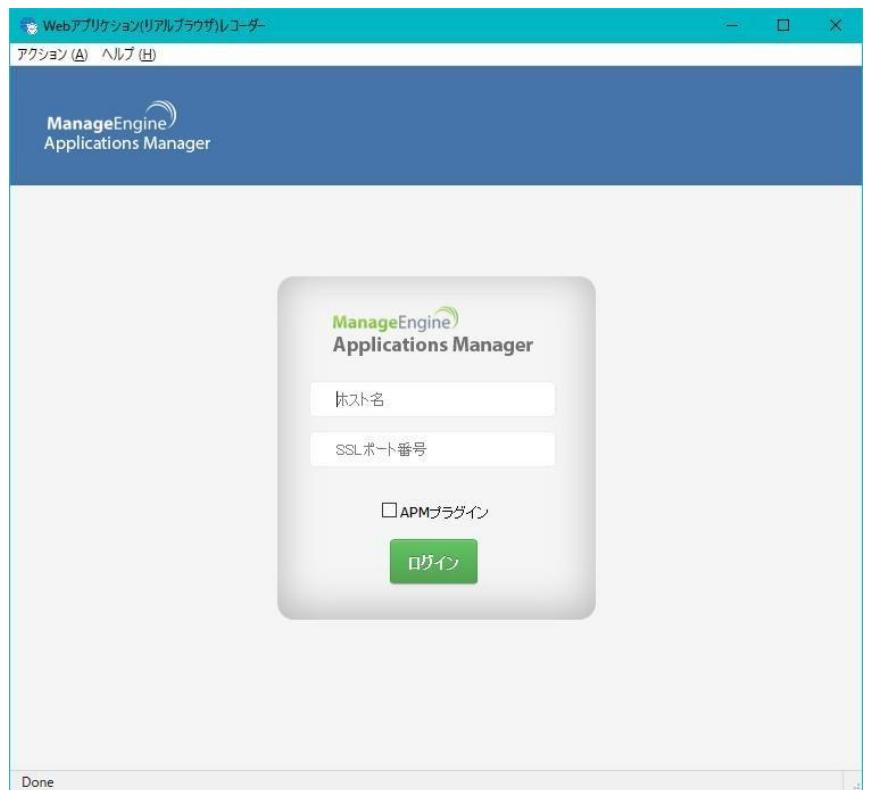
(2) レコーダーを、インストールウィザードに従ってインストールします。詳細なインストール手順につきましては、以下のソリューションナレッジをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications\\_Manager/?p=440](https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=440)

(3) ホスト名に、Applications Manager 本体がインストールされているホスト名／IP アドレスを入力します。

SSL ポート番号欄に、Applications Manager の SSL ポート番号を入力します。

APM プラグインでリアルブラウザー監視をご使用の場合は、APM プラグインの項目にチェックを入れ、[ログイン]をクリックします。

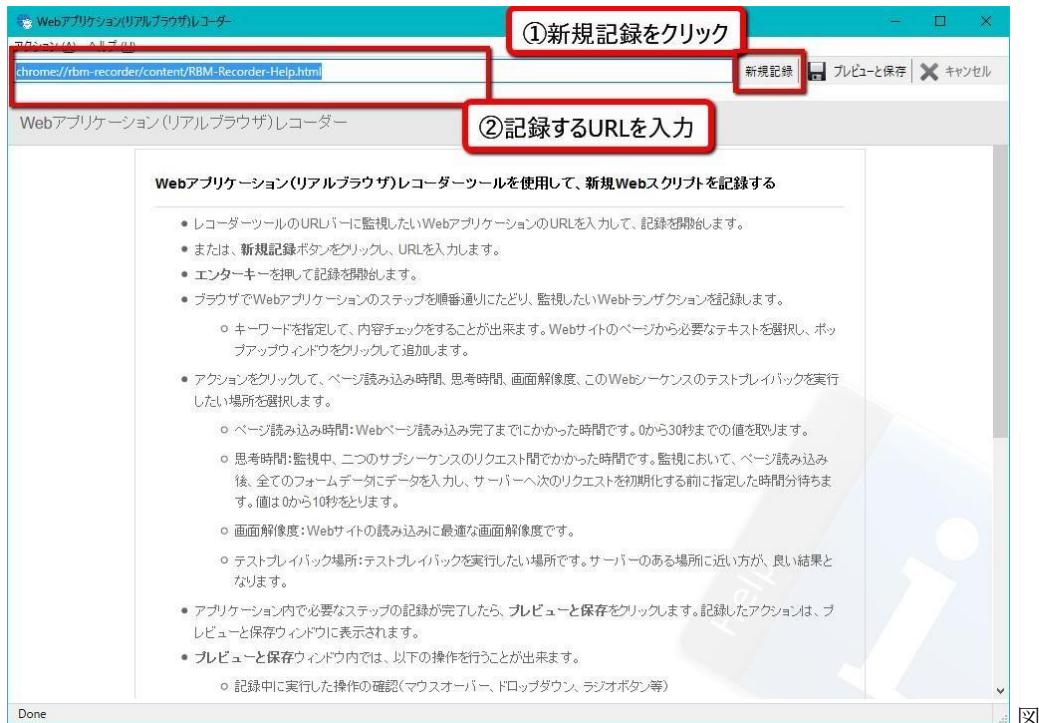


図

66 リアルブラウザーレコーダー起動画面

(4) ユーザー名／パスワードに、Applications Manager のユーザー名とパスワードを入力し、接続をクリックします。

(5) [新規記録]ボタンをクリックし、アドレスバーに記録を開始したい Web ページや Web サービス等の URL を入力し、[Enter]キーを押下します。レコーダー上で監視したい順番にページのリンクを辿り、ページを表示します。

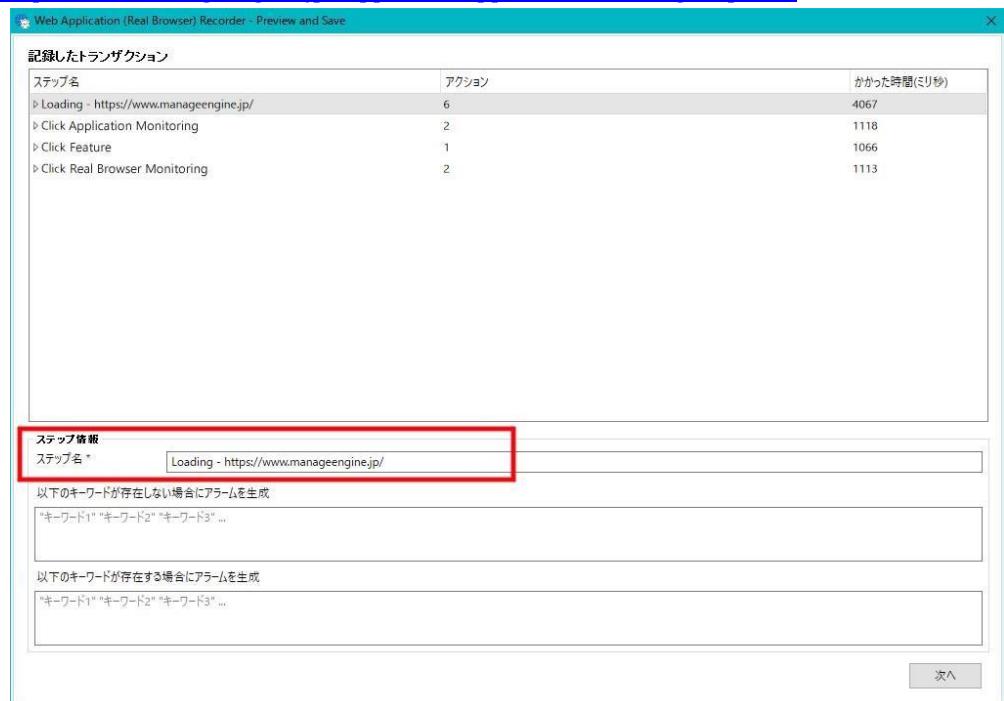


67 リアルブラウザーレコーダー記録開始画面

(6) 画面右上の[プレビューと保存]ボタンをクリックします。作成したシナリオが表示されます。各ステップ（手順）のタイトル、ページ内の必須キーワード、不要キーワードを編集／追加できます。

※ステップ名には日本語文字を含む 2 バイト文字を使用できません。詳細は以下のソリューションナレッジをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications\\_Manager/?p=364](https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=364)



68 リアルブラウザーレコーダー ステッププレビュー画面

(7) 監視名、ポーリング間隔を設定し、このシナリオをプレイバックするエージェントを選択します。複数のエージェントを選択することで、同一シナリオを各エージェントから監視できます。必要事項入力、選択後、[保存]を押下し、Applications Manager へ監視を保存します。

※エージェントの設定は、Applications Manager 本体からも編集可能です。監視グループへの関連付けのチェックボックスを選択することで、既存のグループへの関連付けができます。



69 リアルブラウザーレコーダー 監視保存画面

(8) 登録したリアルブラウザー監視ページに移動します。

(装置情報ページに移動するには、[監視]タブから対象アプリケーション・装置のカテゴリーをクリックし、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、[エンドユーザー監視]タブ、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)

(9) 監視の詳細ページは以下のようになります。リアルブラウザー監視の監視名は「監視名 - エージェント名」となります。監視名をクリックすると、エージェントをインストールした各ロケーションからの Web サービスのパフォーマンス計測結果を表示します。計測可能な値は、[平均ページ読み込み時間]、[トランザクション時間]、[ステップのページ読み込み時間]、スクリーンショット、各ページ表示時の詳細情報(β 版)です。

エンドユーザー監視エージェント						
	RBM	応答時間 (ミリ秒)	トランザクション時間 (ミリ秒)	可用性	ステータス	アラーム設定
<input type="checkbox"/>	Zohoサイト-demo-apm	1,221	6,105	<span style="color: green;">●</span>	<span style="color: orange;">●</span>	<span style="color: red;">■</span>
アクション <a href="#">-アクション選択</a>						

70 リアルブラウザー監視 監視選択画面

(9) 各監視項目右に表示される [アラート設定] をクリックし、障害管理のためのしきい値・異常値が設定できます。詳しくは『10 障害管理の設定』をご参照ください。

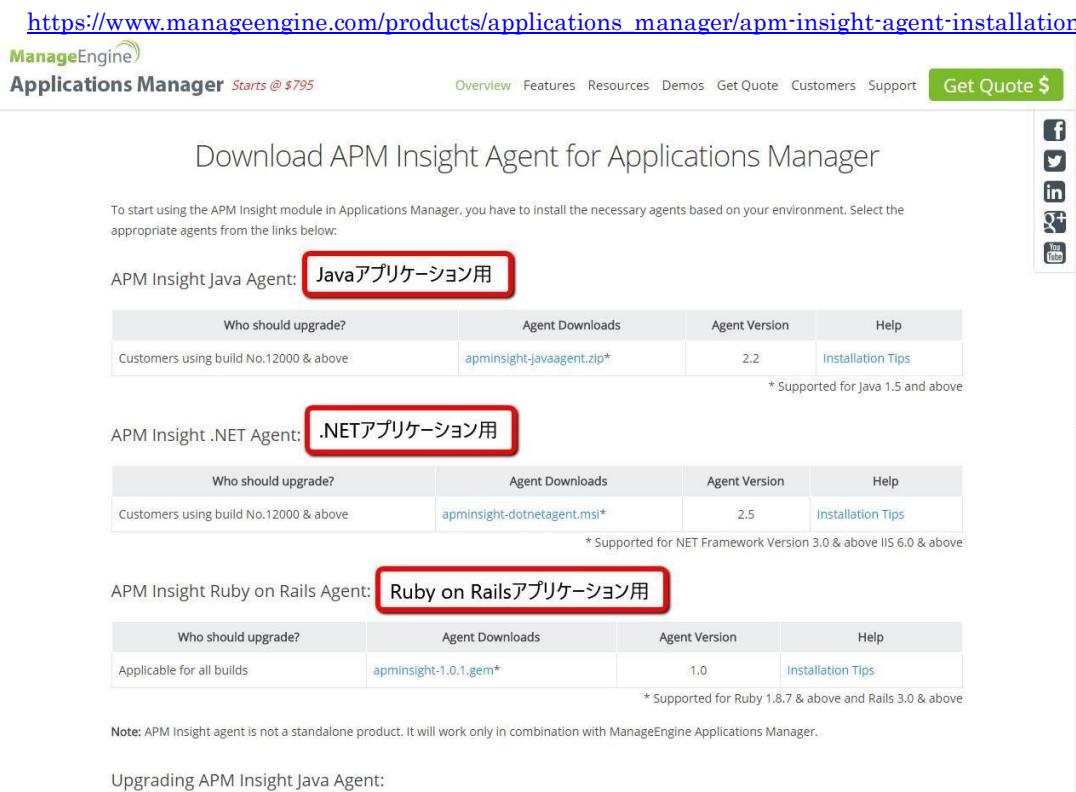
## 8.12 APM インサイト監視

(1) APM インサイトで監視可能なアプリケーションは以下の通りです。

- Java アプリケーション
- .NET アプリケーション
- Ruby on Rails アプリケーション

(2) 対応するアプリケーション用の APM インサイト エージェントを、以下の Web ページよりダウンロードします。

[https://www.manageengine.com/products/applications\\_manager/apm-insight-agent-installation.html](https://www.manageengine.com/products/applications_manager/apm-insight-agent-installation.html)



The screenshot shows the ManageEngine Applications Manager website. The top navigation bar includes 'Overview', 'Features', 'Resources', 'Demos', 'Get Quote', 'Customers', 'Support', and a 'Get Quote' button. Below the navigation is a social media sharing bar with icons for Facebook, Twitter, LinkedIn, Google+, and YouTube. The main content area is titled 'Download APM Insight Agent for Applications Manager'. It provides links for Java, .NET, and Ruby on Rails agents. Each section includes a table with 'Who should upgrade?', 'Agent Downloads', 'Agent Version', and 'Help' links. A note at the bottom of each section specifies supported versions: Java 1.5 and above, .NET Framework Version 3.0 & above IIS 6.0 & above, and Ruby 1.8.7 & above and Rails 3.0 & above. A note at the bottom of the page states: 'Note: APM Insight agent is not a standalone product. It will work only in combination with ManageEngine Applications Manager.'

図

### 71 APM インサイト エージェントダウンロード (3)

新規フォルダ／ディレクトリにダウンロードしたファイルを解凍します。

(4) Java アプリケーション監視用の設定手順は以下の通りです。

A) テキストエディタで apminsight.conf を開き、application.name、apm.host、apm.port を編集します。

19 行目 : application.name=My Application

⑨ アプリケーションの表示名となります。

24 行目 : apm.host=localhost

⑨ Applications Manager インストールサーバーの IP アドレスまたはホスト名を記入します。

32 行目 : apm.port=9090

⑨ Applications Manager が起動しているポート番号を記入します。

その他の設定の詳細情報は、以下の Applications Manager ヘルプページをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/products/Applications\\_Manager/help/APMInsight/configuration-options.html](https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/APMInsight/configuration-options.html)

B) 監視したいアプリケーションのスタートアップスクリプトを編集し、エージェント起動用の記述を追加します。

◆Windows では、(監視対象アプリケーションのスタートアップスクリプト) .bat を開き、以下のエントリを java 起動オプションの冒頭に追加します。

```
SET JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS% -javaagent:< エージェントディレクトリの絶対パス
>/apminsight-javaagent.jar"
```

◆Linux では、(監視対象アプリケーションのスタートアップスクリプト) .sh を開き、以下のエントリを java 起動オプションの冒頭に追加します。

```
export JAVA_OPTS="$JAVA_OPTS -javaagent:< エージェントディレクトリの絶対パス
>/apminsight-javaagent.jar"
```

各アプリケーション用の設定方法の詳細な手順につきましては、以下の Applications Manager ヘルプをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/products/Applications\\_Manager/help/APMInsight/installing-transactio\\_nagent.html](https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/APMInsight/installing-transactio_nagent.html)

(5) .NET アプリケーション監視用の設定手順は以下の通りです。

- A) アプリケーションサーバーにエージェントを展開し、.msi ファイルを実行します。
- B) インストールするフォルダを選択します。
- C) 参照をクリックして、.NET エージェントをインストールするフォルダバスを選択します。 [次へ] をクリックします。
- D) [次へ]をクリックして、エージェントのインストールを開始します。
- E) .NET エージェント設定ウィンドウがインストール完了前に開きます。ここで、Applications Manager のホストとポート番号、Apdex 等の設定を行います。 F)
- 保存をクリックして、インストールを完了します。
- G) .conf ファイルを編集し、エージェントの設定をします。設定項目の詳細につきましては、以下の Applications Manager ヘルプをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/products/Applications\\_Manager/help/APMInsight/configuration-options.html](https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/APMInsight/configuration-options.html)

H) .NET アプリケーションの監視についての詳細情報は以下のヘルプページをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/products/Applications\\_Manager/help/APMInsight/dotnet-agent.html](https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/APMInsight/dotnet-agent.html)

(6) Ruby on Rails アプリケーション監視用の設定手順は以下の通りです。

- A) サポートされている環境は Ruby - 1.8.7 以上、Rails - 3.0 以上です。
- B) Ruby がインストールされたシステム内で以下のコマンドを使用し、RubyGem からインストールします。

```
gem install apminsight
```

または、ダウンロードしたファイルを使用し、`gem install apminsight.gem` コマンドを実行します。

C) Gem のインストール後、アプリケーション毎に、以下の行をアプリケーション `gem` ファイルに追加します。

```
gem 'apminsight'
```

D) または、アプリケーション毎に、以下の行をアプリケーションのイニシャライザブロックに追加します。

```
require 'apminsight'
```

E) 以下の設定オプションを書き換えます。エージェント初期化のために必須です。:

- `application.name` : Applications Manager 内で表示されるアプリケーション名です。
- `apm.host` : Applications Manager が起動しているホストです。
- `apm.port` : Applications Manager の HTTP ポートです。
- `behind.proxy` : エージェントがインストールされているプロキシネットワーク下です。
- `agent.server.port` : アプリケーションサーバーの HTTP リスニングポートです。

他の設定の詳細情報は、以下の Applications Manager ヘルプページをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/products/Applications\\_Manager/help/APMInsight/configuration-options.html](https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/APMInsight/configuration-options.html)

(7) 登録した APM インサイト監視ページに移動します。

(装置情報ページに移動するには、[APM インサイト]タブから、該当の監視項目の名前をクリックします。その他、[ホーム]タブの[ダッシュボード]のウィジェット内の監視名をクリックするか、[エンドユーザー監視]タブ、または作成した監視グループからアプリケーション・装置を選択して表示できます。)

(8) 監視に成功すると、設定した間隔毎に Web サービスの監視が実施され、結果が表示されます。

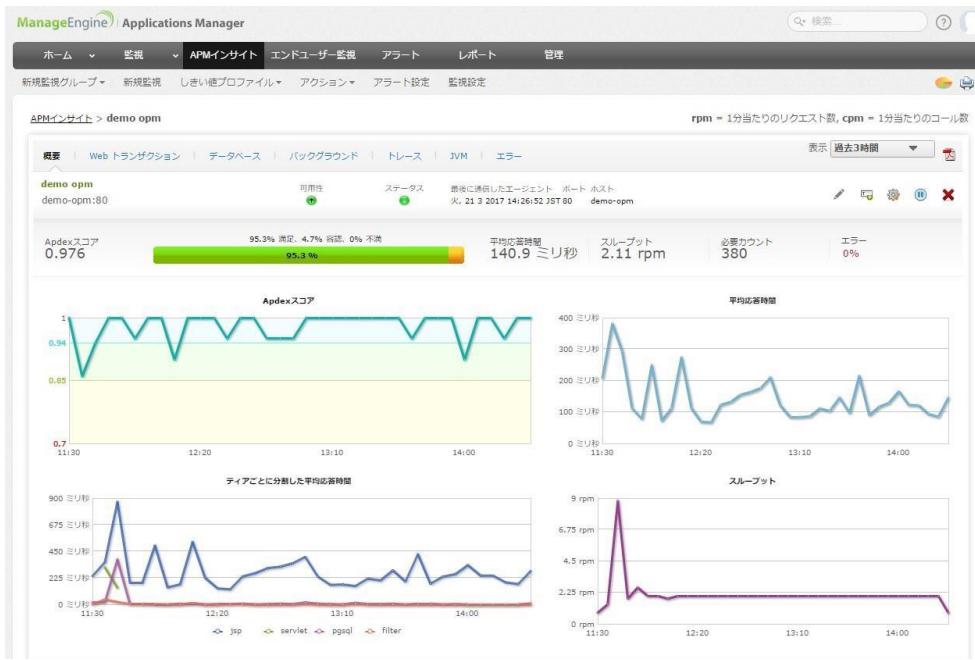
可用性のアイコンの色は右の通りです：  アップ  ダウン

ステータス（重要度）のアイコンの色は右の通りです  重大  警告  クリア

APM インサイト監視では、アプリケーションに対するユーザー満足度を指標化した Apdex スコア、平均応答時間、スループット、トランザクションに関する情報が表示できます。

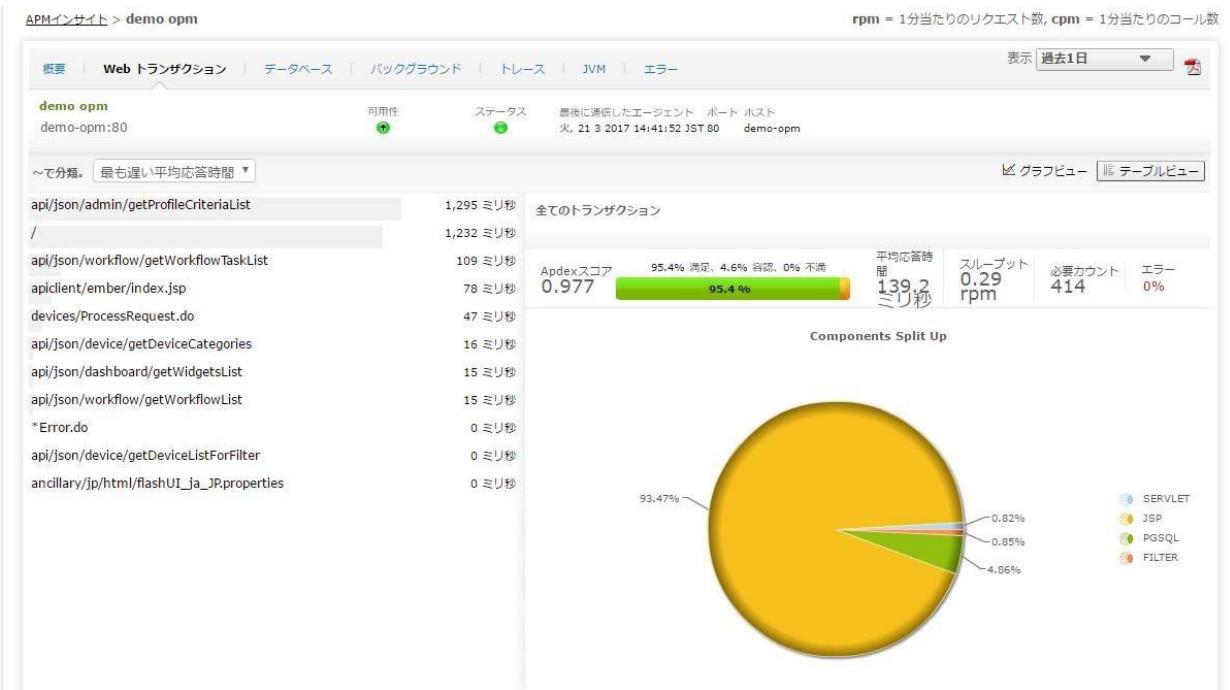
Apdex スコアについての詳細情報は、以下の弊社ブログ記事をご参照ください。

<https://blogs.manageengine.jp/apdex/>



72 APM インサイト監視画面

(9) APM インサイト監視では、表示した時間枠内に登録したアプリケーション内で実行されたトランザクション、データベースクエリ、JVM 情報、トランザクションのエラー等の詳細情報を表示できます。



73 [Web トランザクション]監視ページ

(10) [概要]ページ右に表示される  をクリックし、障害管理のためのしきい値が設定できます。



図 74 しきい値の設定

#### 8.13 ポーリング設定

- (1) 登録したアプリケーションまたは装置の監視ページに移動します。
- (2) 監視ページ右上の[監視アクション]ボタンをクリックします。
- (3) [監視の編集]をクリックします。
- (4) 監視の編集ページより、登録した監視情報の編集およびポーリング間隔の編集ができます。
- (5) 編集後、[更新]ボタンをクリックして、変更を保存します。



図 75 [監視アクション]ボタン

#### 9 監視ビューの設定

監視ビューの設定を説明します。

## 9.1 監視グループ

監視グループを使用し、Applications Manager に登録したアプリケーション・装置をグループ化することができます。

- (1) [新規監視グループ]をクリックし、新規監視グループ作成ページに移動します。

※APM プラグインの場合は、[管理]メニュー > 「ディスカバリとデータ収集」内の[追加／ディスカバリ]をクリックし、画面上部の[監視グループ]をクリックします。

図

76 監視グループ作成画面

- (2) [監視グループ名]に作成する監視グループの名前を入力します。
- (3) [説明]にこの監視グループの説明を入力します。(任意)
- (4) [オーナー]から、この監視グループを操作・表示できるユーザーを指定します。
- (5) [グループタイプ]より、この監視グループの種類を選択します。
  - ・監視グループ : Applications Manager に登録した複数のアプリケーション・装置をグループ化します。
  - ・Web アプリケーショングループ : Web アプリケーションを、Web サーバー、データベース、URL など、カテゴリ毎に分類して表示、管理できます。
- (6) [監視グループの作成]をクリックし、設定を保存します。

## 9.2 ダッシュボード

[ホーム]タブで表示される画面をダッシュボードと呼びます。デフォルトで用意されたダッシュボードにウィジェットを追加できるほか、新しく作成することができます。

- (1) [ホーム]タブをクリックし、画面右の[アクション]ボタンをクリックします。
- (2) [新規ダッシュボード]をクリックし、新規ダッシュボードの作成ページに移動します。



図

### 77 新規ダッシュボードの作成画面

- (3) [名前]に作成するダッシュボードの名前を入力します。
- (4) [説明]にダッシュボードの説明を入力します。
- (5) [ウィジェット一覧]より、予め追加するウィジェットが選択できます。なお、ダッシュボード作成後もウィジェットの追加が可能です。
- (6) [作成]をクリックし、設定を保存します。

## 10 障害管理の設定

アラートの設定を説明します。アラートを設定することにより、Applications Manager に登録したアプリケーション・装置の障害情報を通知したり、色分けして発見されやすくなったりできます。

アラートをメールとして通知するには、メールサーバー設定 (10.1)、アクションの作成 (10.3) しきい値・異常値プロファイルの作成と関連付け (10.4 - 10.5)、という 3 つの設定が必要です。

### 10.1 メールサーバー設定

- (1) [管理]タブより、「製品設定」カテゴリー内の[接続サーバー]をクリックします。



図

78 メールサーバー設定画面

- (2) [SMTP サーバー]、[SMTP サーバー ポート番号]を入力します。
- (3) 送信元を特定アドレスにする場合、[E メール]欄にメールアドレスを入力します。
- (4) メールサーバーに認証が必要な場合、[SMTP サーバー認証が必要]にチェックを入れ、[ユーザー名]、[パスワード]を入力します。
- (5) [保存]をクリックし、設定を保存します。

## 10.2 アラート設定

Applications Manager が計測したアプリケーション・装置のパフォーマンスの値に従ってアラートを発生させるには、しきい値・異常値プロファイルを作成し、各監視に関連付けます。

- (1) 装置の監視詳細画面を開きます。
- (2) アラート設定ボタンをクリックし、アラート設定画面に移動します。表 10 監視画面毎のアラート設定ボタン例

利用可能なバイトが一番少ないテーブルスペース					全て表示
<input type="checkbox"/> テーブルスペース名	空きバイト(MB) (MB)	空きメモリ量の割合 (%)	ステータス	アラーム設定	
<input type="checkbox"/> UNDOTBS1	32,753.67	99.96	●		
<input type="checkbox"/> EXAMPLE	32,690.3	99.76	●		
<input type="checkbox"/> USERS	32,682.05	99.74	●		
<input type="checkbox"/> SYSTEM	31,864.11	97.24	●		
<input type="checkbox"/> SYSAUX	31,515.55	96.18	●		

アクション  比較レポート



(3) [しきい値情報]タブからしきい値の設定、[異常値情報]タブから異常値の設定ができます。

### 10.3 アクションの作成

発生したアラートを通知するためのアクションを作成します。作成できるアクションは以下の通りです。

表 11 実行可能アクション一覧

メール送信 SMS 送信 プログラム実行新規チケット作成 トランザクション MBean 操作の実行  
(ManageEngine ServiceDesk Plus)

Java ヒープダンプ

Amazon EC2 インスタンスのアクション 仮想マシンへのアクションスレッドダンプ  
(AWS) (VMWare,Hyper-V,XenServer) ガーベッジコレクション操作

コンテナアクション (Docker)

Windows サービスアクション

(1) サブメニューの[アクション]をクリックします。

※APM プラグインでは、[管理]メニュー > [アラート／アクション]カテゴリー内の[アクション]をクリックします。

(2) [新規アクションの作成]以下より、作成したいアクションを選択し、クリックします。

(3) 以下、メールアクションの作成手順を説明します。[表示名]にメールアクションの名前を入力します。

(4) [差出人アドレス]に、メールの差出人となるメールアドレスを入力します。

図

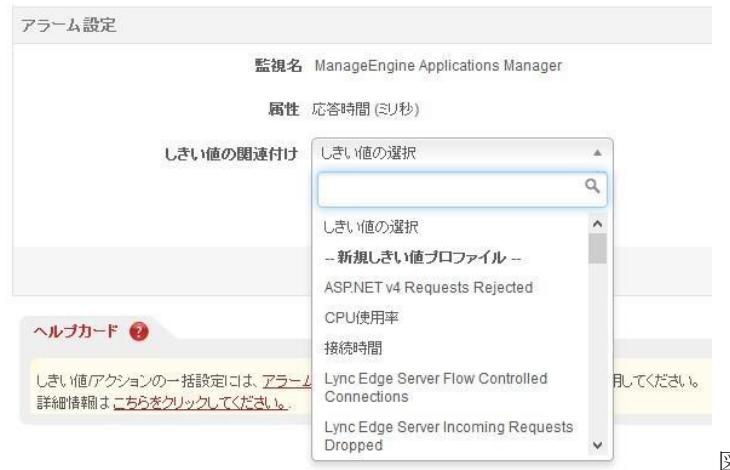
## 79 メールアクション作成

- (5) [宛先アドレス]に、メールを送信する宛先のメールアドレスを入力します。
- (6) [件名]に、送信されるメールの件名を入力します。
- (7) [メッセージ]に、送信されるメールに表示するメッセージを入力します。変数を記入することにより、メール送信の原因となったアプリケーション・装置のアラート情報を記載できます。
- (8) [メールフォーマット]から、送信するメールの形式を選択します。
- (9) アプリケーション・装置のアラート情報をメール内に記載する場合は、[アラートメッセージの添付]のチェックボックスを選択します。
- (10) メール送信を業務時間内に限定する場合は、[アクションを業務時間に基づいて実行]のチェックボックスを選択します。
- (11) [アクションの作成]をクリックして、設定を保存します。

---

### 10.4 しきい値プロファイルの作成と関連づけ

- (1) 装置の監視詳細画面を開きます。
- (2) アラート設定ボタンをクリックし、アラート設定画面に移動します。
- (3) [しきい値情報]タブをクリックし、[しきい値の関連付け]の項目から、関連付けたいしきい値プロファイルを選択します。しきい値プロファイルを新規作成するには、[--新規しきい値プロファイル--]を選択します。



80 しきい値プロファイル選択

(4) 新規しきい値プロファイルを選択した場合、しきい値を入力します。警告アラートを発生されるしきい値、発生したアラートを解除する値を設定するには、[詳細オプションを表示]にチェックを入れます。



図 81 新規しきい値プロファイル作成

(5) [属性レベルでアクションを設定]をクリックすると、設定されたしきい値を超えてアラートが発生した際に、メール等で通知を行うための「アクション」を関連づけできます。

[利用可能なアクション]一覧から、アラートが発生したら実行するアクションを選択し、[>]をクリックして、[関連付けられたアクション]に移動します。



82 アクションの関連付け

(6) [保存]をクリックして、設定を保存します。

## 10.5 異常値プロファイルの作成

異常値を関連付けるには、予め異常値プロファイルを作成しておく必要があります。※しきい値と異常値に関する詳細情報は、次の記事をご覧ください。

[http://blogs.manageengine.jp/apm\\_threshold/](http://blogs.manageengine.jp/apm_threshold/)

- (1) サブメニューの[しきい値プロファイル]をクリックします。
- (2) [新規異常値プロファイル]をクリックします。  
※APM プラグインの場合は、[管理]メニュー > [アラート／アクション]カテゴリー内の[しきい値と異常値]をクリックし、[異常値プロファイル]タブに移動します。
- (3) [ここをクリック]のリンクをクリックし、異常値プロファイル作成画面に移動します。
- (4) 異常値についての説明画面が開きます。[継続]をクリックして、異常値プロファイルの作成画面に移動します。



図

### 83 異常値プロファイル作成

- (5) [異常値プロファイル名]にプロファイル用の名前を入力します。
- (6) 異常値として扱う基準の算出方法は、[ベースライン値]と[カスタム表現]の二種類から選択できます。
- (7) [ベースライン値]を選択した場合、ベースライン値の決定方法を選択します。[カスタム表現]を選択した場合は、式を入力します。
- (8) [異常値プロファイルを生成]ボタンをクリックし、設定を保存します。
- (9) プロファイルを関連付ける装置の監視詳細画面を開きます。
- (10) アラート設定ボタンをクリックし、アラート設定画面に移動します。
- (11) [異常値情報]タブをクリックし、作成した異常値プロファイルを選択します。



図

### 84 異常値プロファイル設定

- (12) [同様の監視に適用]をチェックすると、同じ監視カテゴリー内の監視項目に異常値プロファイルを一括適用できます。
- (13) [保存]をクリックして、設定を保存します。

## 11 レポートの設定

レポートの設定を説明します。Applications Manager が計測したデータをまとめ、形式を指定して出力できます。

### 11.1 レポートの作成方法

レポートの作成手順は以下の通りです。

- (1) [レポート]タブをクリックします。
- (2) 左側のカテゴリーから、レポートを出力するアプリケーション・装置のカテゴリーを選択します。



85[レポート]タブ

- (3) 右側上部のドロップリストからレポートを出力するアプリケーション・装置を選択します。



86 アプリケーションの選択

- (4) 右側のレポート一覧から作成するレポートをクリックして、レポートを作成します。
- (5) 作成したレポートは、PDF 形式、CSV 形式、印刷対応表示で出力できるほか、メールで送信することができます。（レポートの種類により異なります。）



(6) (7) 図 87 レポート一例

## 11.2 スケジュールレポート

レポートを自動で定期的に作成し、メールで送信するスケジュールレポート機能の設定方法は以下の通りです。

- (1) [レポート]タブから、右上の[スケジュールレポート]リンクをクリックします。
- (2) 画面右上の[新規スケジュール]をクリックします。
- (3) 定期作成するレポートのスケジュール名を入力します。
- (4) 作成したスケジュールを保存後すぐに適用する場合、ステータスを「有効」に設定します。
- (5) レポートタイプを選択します。選択可能なレポートは、可用性レポート、ステータスレポート、属性レポート、アラートレポート、ダウントIME概要レポート、概要レポート。カスタム属性レポート、可用性・ステータスの現在のスナップショットレポート、可用性・ステータスの重大スナップショットレポート、可用性・ステータス概要レポート、機能停止比較レポート、可用性傾向レポート、可用性とダウントIMEの傾向レポート、エンドユーザー監視の概要レポート、ロケーションごとのエンドユーザー監視概要レポート、SLA レポート、ダッシュボードレポート、予測レポート、MSSQL パフォーマンスレポートです。



図

88 スケジュールレポート設定画面

(6) チェックボックスから、レポートを作成したい監視を選択します。

(7) [反復詳細]から、レポートを作成する頻度を選択します。

(8) [レポート配信]から、レポートの配信形式を選択します。選択可能な形式は以下の通りです。

添付としてレポートを送信：作成したレポートを添付ファイルとしてメールに添付し、送信します。

リンクとして送信：Applications Manager サーバー内に作成、保存したレポートへのリンクを記載したメールを送信します。

レポートタイプ：PDF 形式、CSV 形式から選択します。（レポートの種類により、いずれか片方のみ出力可能な場合があります。）



図 89 配信されるレポートの例 (概要レポートをリンクとして送信)

(9) 配信先のメールアクションアドレスを選択します。

## 12 その他

Applications Manager で設定可能な他の項目について説明します。

### 12.1 ユーザー管理 - 新規作成

Applications Manager にログインするユーザーの作成、権限付与、ユーザーがする監視項目の管理ができます。

ユーザーを作成する手順は以下の通りです。

- (1) [管理]タブから、[製品設定]カテゴリー内の[ユーザー管理]をクリックします。
- (2) [ユーザープロファイル]タブから[新規追加]をクリックし、ログインに必要な[ユーザー名]、[パスワード]を入力します。
- (3) [役割]から、ユーザーの権限を選択します。役割毎の権限の差は以下の通りです。
  - ユーザー：すべての監視グループの読み取りアクセス権のみが付与されます。
  - オペレーター：管理者によって割り当てられた監視グループへの読み取りアクセス権が付与されます。
  - 管理者：すべての管理者アクティビティにアクセスできます。管理者はユーザー/オペレーターに与えられる権限を管理できます。
  - マネージャー：SLA コンソールを介して Service Level Agreements(SLA)を管理できます。管理者（アドミン）権限はありません。
- (4) オペレーター、マネージャーを選択した場合、作成するユーザーが表示可能な監視グループを選択します。
- (5) [ユーザーの作成]をクリックし、設定を保存します。

### 12.2 ユーザー管理 - ドメイン

ドメインから Applications Manager にログインするユーザー アカウントを作成できます。設定手順は以下の通りです。

- (1) [管理]タブから、[製品設定]カテゴリー内の[ユーザー管理]をクリックします。
- (2) [ドメイン]タブより、[新規作成]作成をクリックします。
- (3) ユーザーを読み込むドメインのドメイン名、ドメインコントローラーのホスト名・IP アドレス、ポート番号、サービス（Active Directory または OpenLDAP）を入力します。
- (4) インポートしたユーザーの権限を選択します。
- (5) [ドメイン追加]をクリックし、インポートを開始します。

### 12.3 パーソナライズ化

ユーザー毎に、Web クライアントのカラー、自動読み込みの設定変更、タブに配置する機能のカスタマイズができます。カスタム方法は以下の通りです。

- (1) [管理]タブから、[製品設定]カテゴリー内の[パーソナライズ化]をクリックします。
- (2) [外観]タブより、色を選択すると、画面上部のタブバーの色が変更できます。
- (3) [Web クライアント]タブより、Applications Manager の Web クライアント画面を自動でリフレッシュする時間間隔を変更できます。
- (4) [タブのカスタマイズ]タブより、画面上部のタブに表示する機能リンクを変更できます。配置可能な機能は、ホーム、監視ビュー、APM インサイト、エンドユーザー監視、アラート、レポート、管理、サポート、監視ビュー（一括設定ビュー、アイコンビュー等）、監視グループ、ダッシュボードです。
- (5) [保存]をクリックし、設定を保存します。

## 13 サポート関連

Applications Manager 保守サービスご契約のお客様が利用可能な Applications Manager 年間保守サポートサービスをご紹介いたします。

### 13.1 年間保守サポートサービス

年間保守サポートサービス（保守サービス）は、保守サービス契約を締結されているお客様または年間ライセンスをご購入のお客様（保守サービスユーザー）が当社の定める利用環境で Applications Manager が利用されていることを前提に提供されます。

表 12 ライセンスと保守サポートサービス

ライセンス名	保守サービス解説
通常ライセンス (無期限ライセンス)	初年度の保守サービスのみライセンスに含まれています。納品日から保守サービスが開始され、以後、1年ごとに保守サービス契約が更新（有料）されます。
年間ライセンス	保守サービスはライセンスに含まれています。

提供されるサービスは以下の表のとおりです。

表 13 保守サポートサービス内容一覧

名称	内容
----	----

技術情報提供	技術文書（リーフレット／スタートアップガイド／ヘルプドキュメント／よくある質問（FAQ）／ソリューションナレッジサイト／グローバル本社ManageEngine サイト等）へのオンラインアクセス※24 時間 365 日利用可能技術サポート
技術サポート	機能説明、本製品（保守サービス対象の製品）利用に関する技術サポートを提供します。「最新バージョン」および「最新バージョンの直前のバージョン」に対して、「技術サポート」を提供します。
問題・不具合調査	本製品の問題・不具合を調査、その解決の支援をします。 「最新バージョン」および「最新バージョンの直前のバージョン」に対して、「問題・不具合調査」を提供します。問題報告に対し、サポート環境を利用して調査を行い、不具合の重要度に応じて対応方針を決定し、当社が必要と判断した場合、 「最新バージョン」に対して、不具合修正または回避策を提供します。 ※EOL となったバージョンについては、調査および不具合修正は行いません。
アップデート・アップ	本製品のアップデート（マイナリリース）・アップグレード（メジャリリース）グレードを提供します。 ※保守サービスユーザーのみアップデートモジュールの入手が可能です。 製品リリース時の保守メールにダウンロード方法を記載しています。

年間保守サポートサービスの詳細情報については、以下の弊社 Web ページをご参照ください。

<https://www.manageengine.jp/support/annual.html>

### 13.2 サポート情報ファイルの取得

保守サポートサービス上で、弊社よりサポート情報ファイルの作成と送付をご依頼する場合があります。サポート情報ファイルの作成手順は以下の通りです。

- (1) [管理]タブから、[製品設定]カテゴリー内の[サポート]をクリックします。
- (2) [サポート情報ファイル]からサポートファイルを作成します。
- (3) ログサイズが大きく Web クライアント上で作成不可の場合は、Applications Manager インストールサーバーから、

Applications Manager インストールフォルダ¥bin¥createSupportFile.bat を実行し

Applications Manager インストールフォルダ¥support¥

に作成されたファイルを取得します。

### 13.3 アップデートパック（サービスパック）の適用方法 ご利用中の Applications Manager へ、最新バージョンへのアップグレード用サービスパックを適用する手順は以下の通りです。

- (1) Applications Manager をサービスより停止します。
- (2) 管理者権限でコマンドプロンプトを立ち上げ、Applications Manager インストールフォルダまで移動後、次のコマンドを実行します。

[Windows の場合] shutdownApplicationsManager.bat

-force

[Linux の場合]

shutdownApplicationsManager.sh -force

※"No process related to the Applications Manager are Running" のメッセージが表示されるまで実行コマンドを繰り返し実行します。

- (3) 停止後、以下のプロセスが停止していることを確認します。

[Windows の場合]

- postgres.exe (または mysql-nt.exe)
- java.exe
- Wrapper.exe(サービスとして起動している場合)

[Linux の場合]

- postgres (または mysqld)
- java
- Wrapper(デーモンとして起動している場合)

- (4) データのバックアップを取得します。バックアップの取得方法は以下のソリューションナレッジをご参照ください。

[https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications\\_Manager/?p=161](https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=161)

- (5) 管理者権限でコマンドプロンプトを立ち上げ、

Applications Manager インストールフォルダ¥bin まで移動し、updateManager.bat を実行します。

- (6) [参照]ボタンより適用したいサービスパックを選択し、[インストール]ボタンをクリックします。

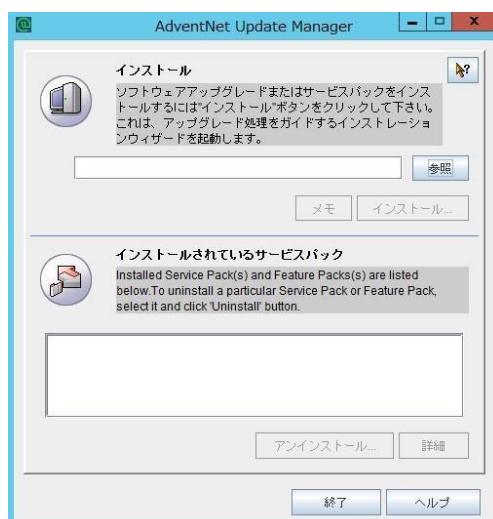


図 90 アップデータマネージャー

(7) 適用完了後、Applications Manager を起動し、正常に監視が開始されていることを確認します。

問い合わせ先

ゾーホージャパン株式会社 ManageEngine & WebNMS 事業  
〒220-0012  
神奈川県横浜市西区みなとみらい三丁目 6 番 1 号みなとみらいセ  
ンタービル 13 階  
TEL : 045-319-4611 (代表)

FAX : 045-330-4149 E-mail : jp-  
mesales@zohocorp.com ホームページ :  
<http://www.manageengine.jp/>  
Applications Manager 製品ページ :  
[https://www.manageengine.jp/products/Applications\\_Manager/](https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/)

ZJTP2021428573

